講義科目名称： 医療倫理学特論　　授業コード：

英文科目名称： Advanced Healthcare Ethics　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2	選択
担当教員	担当者		
服部　健司			

授業形態	講義と演習	担当者
授業計画	1　倫理と倫理学 倫理とは何か。法とはどのような関係にあるのか。倫理学とは何をするのか。 ２－３　医療倫理学・看護倫理学の史的展開 医療倫理学・看護倫理学の流れの変曲点では一体何が作用したのか。 4　医療倫理学・生命倫理学・臨床倫理学 これらの三者は何がどう違うのか。 ５－６　ドラマケースを用いたケーススタディ（1） ファシリテーター役を交代しながらケーススタディを行う。 7　短編小説を用いたケーススタディ（1） 短編小説を深読みし、他の履修者と読み方をめぐって討議する。 8　ケーススタディの物語論 物語論の立場からケーススタディに使用するケースの記述方法を考える。 ９－１０　短編小説を用いたケーススタディ（2） 短編小説を深読みし、他の履修者と読み方をめぐって討議する。 １１－１２　ドラマケースを用いたケーススタディ（２） ファシリテーター役を交代しながらケーススタディを行う。 １３－１４　履修生の自験例をもとにしたケーススタディ 各人がケースを提示し、ケーススタディを行う。 １５　フーコー『監獄の誕生』を読む 解剖政治学と教育、医療との連関について考察する。	
科目の目的	医療の現場の個別具体的な倫理問題を発見・同定し、分析し、暫定的・蓋然的な解決にむけて具体的に考察することができるようになるための方略を習得していただくことが、この科目の目的です。	
到達目標	①問題発見能力を上げる。②幅広い多角的な視野から問題を立体的に浮き彫りにする能力を上げる。③論理的な推論を行い、自身が考えていることを他者に理解してもらうために必要な言語運用能力をみがく。④人間の生とこころの機微への感受性と想像力をみがく。⑤異なる意見や感性をもった他者との積極的な対話を通して、自身のものの見方の狭さに気づき、別様な見方にいたるしなやかさをみがく。	
成績評価方法・基準	授業中の、課題、ケーススタディ、発表などでの発言の質によって評価を行う。 評価尺度は、発言の①論理性、②含意の厚み、③視野の広さ、④批判的・反省的姿勢、⑤切込みの独創性・感性の鋭さ、の５軸です。各２０点の総計１００点とします。平均的な学部生水準の標準点を５０点、大学院生としての標準点を７５点とて採点します。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業にそなえて教科書を各自で熟読してください。かかる時間は履修者ごとに異なるでしょう。そのほか、次回授業にむけて課題となる短編小説をプリントで配布するので、熟読してきてください（およそ１～２時間）。	
教科書・参考書	服部健司・伊東隆雄『医療倫理学のＡＢＣ 第３版』メヂカルフレンド社（2015.12）	
オフィス・アワー	講義の合間および講義終了後３０分間。非常勤講師控室。	
履修条件・履修上の注意	欠席した場合、欠席回数に応じ、課題レポートを提出していただきます。	

講義科目名称： 医療運営・管理学特論　　授業コード：

英文科目名称： Medical administration and Nursing Management　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2	選択
担当教員	担当者		
太田　加世			

授業形態	【太田】学生によるプレゼンテーション、質疑応答、討議 【尾林】講義　ディスカッション　スライドも使用	担当者
授業計画	【太田　加世】 1　社会保障制度と看護 社会保障制度の概要を理解し、看護を取りまく状況を検討する 2　医療保険制度 医療保険制度を理解し、その問題点を検討する 3　医療制度と医療制度改革 最近の医療制度改革を理解し、看護への影響を検討する 4・5　医療提供体制 看護職の人的資源の確保と専門職としての役割について検討する 6・7　診療報酬制度 診療報酬制度を理解し、その課題を検討する 8　介護保険制度 介護保険制度が医療に及ぼしている影響を検討する 9　トピックス その時の時事課題について検討する 【尾林　　徹】 交通・通信手段の発達により医療への知識や技術は目覚ましく進歩した。一方で、人々の生活と密着した文化でもある医療提供体制には試行錯誤の歴史も必要であった。明治時代に在来の漢方医学に代えて西洋医学を導入した我が国の病院医療の歴史は、2000年に亘り培われた西洋医学に比し、僅か百数十年に過ぎない。ゼロから始まったわが国の病院医療は、OECDの統計では欧米先進国と大きな開きがあり、未だ発展途上にある。昭和23年に医療法が制定され、30年代からの高度経済成長期を経て、国民医療費はGDPと並行し増加の一途をたどった。平成2年以降はバブル経済の崩壊、経済成長の停滞、高齢化社会の到来を目前にして医療提供体制の見直しが必要となっている。国は、昭和60年の第一次医療法改正を皮切りに、5回の法改正を行い強力に医療政策の舵を切っている。 　以上、わが国の病院医療が抱える課題につき、いくつかの視点から考察する。 1　病院医療の歴史 明治時代の西洋医学導入によりスタートした、我が国の病院医療はまだ歴史が浅く発展途上である。2000年の西洋文明に育まれた欧米諸国の病院医療には学ぶところが多い。 2　病院医療とマンパワー 病院は医師を中心とする専門職の集合体からチーム医療を主体とする有機的組織に変化している 3　病院の経営 病院経営は、健全経営が自立の前提である。 4　病院の設備 病院には、提供する医療サービスに相応しい設備・機器を整備する不断の努力が求められている。 5　医療をとりまく環境 経済成長の終息と少子高齢化社会の到来により、早急に対策が必要な新たな問題が生じている。 6　社会保障の理念 社会におけるセフティーネットとしての医療の必要性。	
科目の目的	【太田】医療制度が看護現場に及ぼす様々な影響を理解した上での、病院運営、看護組織運営を理解できる 【尾林】わが国の病院医療について歴史的背景とともに、病院医療が抱える課題を考察する	
到達目標	【太田】医療制度のおおよそを理解し、その中で病院経営の在り方、看護組織の運営の在り方について、提案できること 【尾林】わが国の病院医療の現状及び将来展望について理解を深める。	
成績評価方法・基準	【太田】平常点、プレゼン内容 【尾林】レポート　医療問題の認識度（ディスカッション形式を予定）	

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	【太田】 準備学習の内容：各テーマについて1～２テーマ/人を選択し、プレゼン資料を作成し、10分/人程度発表していただきます。「他のメンバーが理解できるプレゼン」は目標です。 準備学習に必要な学習時間の目安：人によって異なる（上記目標が達成できる時間が必要な時間） 【尾林】 毎回３０分程度の学習内容の振り返りをして下さい。予習は不要。
教科書・参考書	【太田】 教科書：使用せず 参考書：「日本の医療　制度と政策」島崎謙治著　東京大学出版会　「2025年へのロードマップ」武藤正樹著　医学通信社 【尾林】 教科書：資料配布（パワーポイント使用） 参考書：授業の中で適宜紹介する
オフィス・アワー	【太田】講義の前後 【尾林】講義の前後
履修条件・履修上の注意	【太田】教員が一方的に教えるよりも学生のみなさんの討議を重要視していますので、積極的に発言・質問をしてください。 【尾林】適宜、文献資料等を紹介の予定。

講義科目名称： 人体の構造と機能学特論　　授業コード：

英文科目名称： Special Lectures on Human Anatomy and Physiology　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2	選択
担当教員	担当者		
宗宮　真			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回　本科目と大学院での研究との関連について 本科目の概要の解説及び本科目と各学生の研究の方向性との関連を考察する。（講義担当：　宗宮　真） 第2回　神経系の構造と機能1 神経系の概観と情報伝達の仕組み　（講義担当：　宗宮　真） 第3回　神経系の構造と機能2 脊髄・小脳の構造と機能および病態について　（講義担当：　宗宮　真） 第4回　神経系の構造と機能3 基底核・視床の構造と機能および病態について　（講義担当：　宗宮　真） 第5回　神経系の構造と機能4 大脳の構造と機能および病態について　（講義担当：　宗宮　真） 第6回　呼吸器系の構造と機能 呼吸器系の構造と機能 特に、よくみられる病態との関連について　（講義担当：宗宮　真） 第7回　循環器系の構造と機能 循環器系の構造と機能 特に、よくみられる病態との関連について　（講義担当：宗宮　真） 第8回　身体活動と構造・機能 身体活動に関連する人体の構造と機能（講義担当：　木村 朗） 第9回　顔面筋の構造・機能 顔面筋の起始・停止・作用、臨床的意義（講義担当：　浅見 知市郎） 第10回　遺伝子と構造・機能1 遺伝子の機能と役割（講義担当：　長田　誠） 第11回　遺伝子と構造・機能2 遺伝子検査と疾患（講義担当：　長田　誠） 第12回　運動器系の構造と機能1 運動器系の概観、上肢の構造と機能および病態について（講義担当：　宗宮　真） 第13回　運動器系の構造と機能2 下肢・脊柱の構造と機能および病態について　（講義担当：　宗宮　真） 第14回　画像検査と構造・機能 画像所見から構造と機能を診る（講義担当：　宗宮　真） 第15回　まとめ、既出事項の確認 まとめ、既出事項の確認　（講義担当：　宗宮　真）	
科目の目的	人体の構造および機能についての知識を深め、これらの知識を看護・リハビリテーション・臨床検査における現象の理解と実践に生かしていく筋道を組み立てる力を養う。	
到達目標	１）基礎教育で学んだ人体の構造および機能の知識を看護・リハビリテーション・臨床検査の実践にどう活かしてきたかを振り返りながら、より深い知識を獲得する。 ２）これらの知識を看護・リハビリテーション・臨床検査における現象の理解と実践に生かしていく筋道を組み立てる力を高める。	
成績評価方法・基準	筆記試験（50%）、課題提出（25%）、授業中の質問への回答（25%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については、自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。概ね1.5時間の授業外学習の時間を確保すること。	
教科書・参考書	教科書：使用しない 参考書：「人体の正常構造と機能」 坂井建雄、河原克雅　（日本医事新報社）	
オフィス・アワー	講義終了後。質問の内容により、別に時間を設定する。	
履修条件・履修上の注意	特にない。	

講義科目名称： 加齢医学特論　　授業コード：

英文科目名称： Aging Science and Anti-aging Medicine　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2	選択
担当教員	担当者		
栗田　昌裕			

授業形態	講義	担当者
授業計画	1　加齢過程で生じる現象Ⅰ 人の一生の発達と加齢過程および老化の機序1 2　加齢過程で生じる現象Ⅱ 人の一生の発達と加齢過程および老化の機序2 3　口腔の加齢医学I　（浅見 知市郎） 口腔の加齢 4　口腔の加齢医学Ⅱ　（浅見 知市郎） 高齢者特有の歯科疾患 5　障害をもつ人の運動と健康　（木村　朗） 障害者の身体活動に及ぼす加齢の影響 6　加齢における健康と疾病について　（木村　朗） Working abikity に対する加齢の影響 7　知的機能の発達と加齢の伴う変化 知能の生涯発達。流動的知能と結晶知能の違い。記憶の仕組み。エピソード記憶と意味記憶。記憶の加齢変化。人格と創造性の加齢変化。認知症。 8　知的機能の健康度の維持改善改善Ⅰ 知的機能と情報処理機能の対応。知的機能と認知能力及び運動機能との相関。認知機能訓練および運動機能訓練による知的機能改善法とその効果。 9　知的機能の健康度の維持改善Ⅱ 知的機能と自律機能及び感情の働きとの相関。自律機能を活用した知的機能改善法と成果。感情情緒の制御による知的機能改善法。 １０　知的機能の健康度の維持改善Ⅲ 知的機能と生活姿勢との相関。環境と習慣を活用した知的機能改善法。記憶力と創造性の維持法。 １１　抗加齢医学Ⅰ 抗加齢医学とは。抗加齢医学を理解するための老化と加齢のメカニズム。 １２　抗加齢医学Ⅱ 抗加齢医学の診断学。オプティマルヘルスとは。 １３　抗加齢医学Ⅲ 記憶と認知機能の加齢変化と抗加齢医学。 １４　抗加齢医学Ⅳ メタボリックドミノと動脈硬化の危険因子と抗加齢医学。 １５　抗加齢医学Ⅴ 有酸素運動、レジスタンス運動の抗加齢医学。	
科目の目的	出生から死亡に至るまでの加齢過程で生じる現象、加齢と生活の蓄積に伴って生じる生活習慣病や知的機能の変化、およびその予防や健康改善の理解・知識を、より精緻に発展させ、抗加齢医学の成果を知り、研究と臨床の実践に役立つようにする。	
到達目標	１．加齢過程で生じる現象を理解し、臨床実践を発展させる知識を深める。２．生活習慣病とその予防、改善について理解し、抗加齢医学を考慮する姿勢を養う。３．加齢に伴う知的機能の変化と改善について理解し、臨床実践に役立てる発想を得る。	
成績評価方法・基準	出席状況、課題レポートを以て評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回で学んだ内容を１時間程度復習。	
教科書・参考書	教科書：使用しない。 参考書： 「アンチエイジング医学の基礎と臨床」（メジカルビュー社）日本抗加齢医学会 専門医・指導医認定委員会編。 「アンチエイジング医学-その理論と実践-」（診断と治療社）吉川敏一著。	
オフィス・アワー	講義の前後。	
履修条件・履修上の注意	栗田の講義に関して、Active Academyにより資料を事前配布します。配布期間は「授業前日から授業日まで」。持参方法は「各自ダウンロードするか、印刷して授業に持参すること」。ダウンロードで講義出席する場合は、講義中にＰＣで読めるようにしてください（バッテリーの持続時間に注	

	意）。印刷する場合はそれを持参して出席してください。

講義科目名称： 保健医療統計学特論　　授業コード：

英文科目名称： Health and Medical Statistics　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2	選択
担当教員	担当者		
宮崎　有紀子			

授業形態	講義（11回）、演習（4回）	担当者
授業計画	第1回　オリエンテーション（宮崎） 第2回　データの記述　（代表値）（宮崎） 第3回　データの記述　（散布度）（宮崎） 第4回　2変量の相関（散布図、相関係数）（宮崎） 第5回　2変量の関連（クロス表）（宮崎） 第6回　母集団と標本抽出（宮崎） 第7回　母集団の推定（宮崎） 第8回　統計的仮説検定（宮崎） 第9回　平均値に関する検定（宮崎） 第10回　クロス表に関する検定（宮崎） 第11回　データ分析の実際①　データの入力方法（矢島） 第12回　データ分析の実際②　単純集計、記述統計（矢島） 第13回　データ分析の実際③　推定と検定（宮崎） 第14回　多変量解析　文献学習（矢島） 第15回　データ分析の実際④　多変量解析（宮崎）	
科目の目的	保健医療系分野における研究に必要な情報の収集・分析方法および統計的方法の基礎を理解する。 統計的方法と研究デザイン、データ集計等について、講義および演習を通して学ぶ。	
到達目標	・データの性質により統計的方法が異なることが理解できる。 ・代表値、ばらつきについて理解できる。 ・統計的推定、検定の考え方が理解できる。 ・種々の統計的手法を理解し、研究過程での適用の判断ができる。	
成績評価方法・基準	プレゼンテーション（70%）、提出物（30%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	関連文献を読み、疑問点などをピックアップしておいてください	
教科書・参考書	参考書1：「論文が読める！早わかり統計学」G.R.Norman et al.　（メディカル・サイエンス・インターナショナル） 参考書2：「いまさら誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ」浅井隆（アトムス）	
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）	
履修条件・履修上の注意	なし	

講義科目名称： 家族社会学特論　　授業コード：

英文科目名称： Advanced Course in Family Sociology　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2	選択
担当教員	担当者		
内藤　和美			

授業形態	講義	担当者
授業計画	1　戦後日本社会の家族と労働とジェンダーの構造① 製造装置としての「性別分業」、一次生産物としての「社会資源の男性偏在」、二次生産物としての「女性問題」 2　戦後日本社会の家族と労働とジェンダーの構造② 社会的労働と私生活労働の性別分業 3　戦後日本社会の家族と労働とジェンダーの構造③ 社会的労働内部の性別分業、２つの分業の再生産関係 4　戦後日本社会の家族と労働とジェンダーの構造④ 女性問題―「女性に対する暴力」を具体例に 5　家族機能の破綻とその解決援助① ドメスティックバイオレンスはどういう問題か 6　家族機能の破綻とその解決援助② ドメスティックバイオレンスの解決支援 7　家族機能の破綻とその解決援助③ DVD視聴 8　家族機能の破綻とその解決援助④ 児童虐待とはどういう問題か　調査結果から　児童虐待とドメスティック･バイオレンス 9　家族機能の破綻とその解決援助⑤ 児童虐待への対応－予防、発見、危機介入（初期対応）、問題解決のための長期的対応 10　家族機能の破綻とその解決援助⑥ 児童虐待への対応の鍵概念－自己肯定感情、ネットワーク、児童虐待防止法 11　家族機能の破綻とその解決援助⑦ 「れんげ草の庭」に学ぶ当事者性 12　ケアとジェンダー ケア役割、主婦という制度 13　家族、労働、性別の再編―より公正で合理的な秩序へ① 家族、労働、性別の再編―より公正で合理的な社会像 14　家族、労働、性別の再編―より公正で合理的な秩序へ② ワークライフバランス、家事労働のゆくえ 15　博士論文紹介 杉浦浩美：働く女性とマタニティ・ハラスメント．大月書店　2010	
科目の目的	基礎教育で習得した家族に関する基本的知識をもとに、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識、とくに個人・家族と社会通念・社会慣習の相互関係に関する見識を深め、患者・対象者だけでなく家族を視野に入れた適切な保健医療サービスを提供し得る力を養う	
到達目標	基礎教育で習得した家族に関する基本的知識をもとに、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識、とくに個人・家族と社会通念・社会慣習の相互関係に関する見識を深め、患者・対象者だけでなく家族を視野に入れた適切な保健医療サービスを提供し得る力を養う	
成績評価方法・基準	平常点と課題レポートの到達度を以て評価する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	15分（教材講読の15回平均時間として）	
教科書・参考書	【教材（教科書扱い）】内田伸子、見上まり子：虐待をこえて、生きる ： 負の連鎖を断ち切る力. 新曜社　2010 【参考書】杉浦浩美：働く女性とマタニティ・ハラスメント.大月書店　2010 渥美雅子編著：家族をこえる子育て ： 棄児・離婚・DV・非行を救うセーフティネット. 工作舎　2014	
オフィス・アワー	講義の前後	
履修条件・履修上の注意	講義で得た知見を自身の修士論文研究や業務の遂行に活用する意思があること	

講義科目名称： 生殖補助医療技術学概論　　授業コード：

英文科目名称： An Outline of Assisted Reproductive Technology　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2	選択
担当教員	担当者		
荒木　康久			

授業形態	講義	担当者
授業計画	1　生殖医療概論 現在行われている生殖医療、とりわけ不妊症治療の国内、国外の様子を含めた広範囲の概論。 2　体外受精 国内外における体外受精の概要と治療原理。 3　配偶子の発生（精子） 原始生殖細胞から成熟精子完成までの発生・分化学を学ぶ。 4　配偶子の発生（卵子） 原始生殖細胞から成熟卵子までの発生・分化学を学ぶ。 5　内分泌（１） 精子の生殖に関する中枢ー下垂体ー性腺のホルモン関係を学ぶ。 6　内分泌（2） 卵子の生殖に関する中枢ー下垂体ー性腺のホルモン関係を学ぶ。 7　胚発生 受精後の分割卵の発生、着床メカニズムを学ぶ。 8　凍結技術学（１） 精子に関する凍結の理論と実際を学ぶ。 9　凍結技術学（2） 卵子に関する凍結の理論と実際を学ぶ。 10　凍結技術学（3） 受精卵（胚）に関する凍結の理論と実際を学ぶ。 11　培養技術（1） 未成熟配偶子（精子）の培養に対する概論を学ぶ。 12　培養技術（2） 未成熟配偶子（卵子）の培養に対する概論を学ぶ。 13　染色体異常 （精子）染色体の構造、異常、分化過程の概念を学ぶ。 14　（卵子）染色体の構造、異常、分化 卵子の染色体の構造、異常、分化の概念を学ぶ。 15　総合討論 全般の概念から学んだ点を整理して生殖医療の問題点と将来を展望する。	
科目の目的	学部で学んだ生殖医療の概念を構築できることを目的とする。 学部で生殖技術学科を学んでこない学生も含まれると考えられるので、他学科からの進学大学院生にも理解できることを目的に生殖医学の一般論が分かることを目的とする。	
到達目標	体外受精を中心とした生殖補助医療の広範囲の関連学問を修得することを目標とする。	
成績評価方法・基準	講義参加と積極的なDiscussionを中心とした学生のモチベーションを評価にしたいと考えている。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	常に予習復習の姿勢で、次回学ぶべきところを精査して勉強することに期待している。各学んだテーマについて討論する場合、積極的な発言をできるよう準備をして講義に臨んでほしい。	
教科書・参考書	（参考書）「生殖補助医療テキスト」著　荒木康久	
オフィス・アワー	講義の前後、あるいは月、水、木のいずれか。	
履修条件・履修上の注意	次回予告した箇所について、講義前にdiscussionしてから授業を開始します。	

講義科目名称： 教育学　　授業コード：

英文科目名称： Education　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2	選択
担当教員	担当者		
佐々木　尚毅			

授業形態	講義	担当者
授業計画	1 イントロダクション なぜ学ぶのか、何を学ぶのか 2 社会化(1) 意味ある大人”の影響力。子どもはどのようにして大人になるのか。大人とは子どもとは。 3 社会化(2) 育児と育自、子育てと子育ち。 4 社会化(3) 社会化の現代的特質。子どもの育ち、若者の現状。見誤られる「教育問題」の本質。 5 社会化(4) 社会化の現代的特質。子どもの育ち、若者の現状。見誤られる「教育問題」の本質。 6 ジェンダー(1) 性別役割と特性論。 7 ジェンダー(2) 国連『人口白書』(2000年)の警告。少子高齢社会の必然。ジェンダーと少子化。 8 ジェンダー(3) 働くことと生きること。男女平等－世界の中の日本－ 9 子どもの“荒れ”(1) 人は人の中で人になる。機能的共同体としてのムラ。 子育てと子育ちの仕掛けと儀式。 10 子どもの“荒れ”(2) 高度経済成長を支えた“金の卵”たち。ムラを忘れた子どもたち。 11 子どもの“荒れ”(3) 学歴社会、そして学校歴社会。ジェンダーと学歴社会。 “お受験”を支える日本の心性「なせば成る」。 12 大人になれない子どもたち(1) 一億総ガキ社会。「生きる力」はなぜ求められたか。 13 大人になれない子どもたち(2) 子ども若者の現状と指導の課題。どう支援するか。 14 指導・支援・援助 大人として、親として。 15 大人とこども 人はどのようにして大人になるか。人はどのようにして親になるか。現代社会と教育。	
科目の目的	人は歳をとるだけでは大人にならない。子どもを産んだだけでは親にはなれない。人はどのようにして大人になり親になっていくのか。その過程を理解し、現代社会において大人になること、親になることの難しさの背景を理解することを目的とする。	
到達目標	日本の教育の現状と課題を理解し説明できる。その理解の上にたち、大人が果たすべき役割を受講者一人ひとりが主体的に考え、受講者一人ひとりが自律的に、「意味ある大人」として、子ども青年の育ちを促し、励まし、見守り、支えることができる。	
成績評価方法・基準	最終テストまたはレポート（40%），授業での討論への参加と授業内で行う課題の提出（60%）を総合して行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義を円滑に行うため、受講生は講義各時間当たり2時間の予備的学習と事後の学習が必要となる。各時間ごとに、あらかじめ関連する論文等を配付する。また、講義終了後は、リアクション・ペーパーとレポートの提出を課す。	
教科書・参考書	使用しない	
オフィス・アワー	講義の前後	
履修条件・履修上の注意	とくになし	

講義科目名称： 応用英語　　授業コード：

英文科目名称： Applied English　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2	選択
担当教員	担当者		
杉田　雅子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	1　文献精読 Changes in Sleep Patterns in COPDについての文献を読む 2　文献精読 Changes in Sleep Patterns in COPDについての文献を読む 3　文献精読 Confusionについての文献を読む。 4　文献精読 Confusionについての文献を読む。 5　文献精読 Communicating with Infants　についての文献を読む 6　文献精読 Communicating with Infants　についての文献を読む 7　文献精読 実際の論文のabstractを読み、書き方を説明する。 8　文献精読 A Full Research Articleを読む 9　文献精読 A Full Research Articleを読む １０　文献精読 A Full Research Articleを読む １１　文献精読 A Full Research Articleを読む １２　文献精読 A Full Research Articleを読む １３　文献精読 A Full Research Articleを読む １４　文献精読 A Full Research Articleを読む １５　文献精読	
科目の目的	研究に必要な情報・知識を得るための英文読解力と、各自の研究成果を英語で表現する力の養成。 音声面では正しい発音・アクセントで英文が読める力の養成。	
到達目標	１）基礎的英文法を確認しながら構文を分析し、英語文献を正しく読み取ることができる ２）読み取った内容から論旨を把握し、要約することができる ３）専門用語を理解し、運用できる ４）英文を正しい発音、アクセントで読むことができる	
成績評価方法・基準	課題、授業での発表(100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	わからない単語は調べ、構文を確かめながら英文を読んで大意をつかんでおく。わからない部分がどのようにわからないのかを明確にしておく。約90分間	
教科書・参考書	なし。プリントを使用。	
オフィス・アワー	授業の前後（1号館3階324研究室）	
履修条件・履修上の注意	特になし。	

講義科目名称： 研究方法特論　　授業コード：

英文科目名称： Advanced Methodology in Health Care Research　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1	必修
担当教員	担当者		
中　徹			

授業形態	座学	担当者
授業計画	1回　研究の意義　（中　徹） 研究とは、研究の意義 2回　保健医療研究の歴史　（木村 朗） 保健医療に関する研究の歴史 3回　研究の基礎1　（木村 朗） 計測について 4回　研究の基礎2　（木村 朗） 信頼性、妥当性、バイアスについて 5回　研究と倫理　（藤田　清貴） 医療系における研究の道義的責任と倫理 6回　研究の分類と特質1　（木村 朗） 理学療法学領域における研究 理学療法学領域における研究　―基礎研究、応用研究を中心に― 7回　研究の分類と特質2　（小河原 はつ江） 病因・病態検査学領域における研究　―臨床研究を中心に― 8回　研究の分類と特質3　（矢島 正栄） 看護学領域における研究　―質的研究を中心に―	
科目の目的	保健科学研究の意義、および研究を遂行する上で習得すべき基本的な事項を学修する。	
到達目標	自分が研究を行う意義を説明できる。 研究に必要な基本的考え方について説明できる。 研究倫理について説明できる。 研究の分類とその特質について説明できる。	
成績評価方法・基準	レポートによる評価	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	復習を中心に90分程度振り返り、整理する	
教科書・参考書	特に指定しない	
オフィス・アワー	講義の前後	
履修条件・履修上の注意	必要事項があれば事前に連絡する	

講義科目名称： 研究方法論Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Methodology in Health Care Research Ⅰ　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1	選択
担当教員	担当者		
矢島　正栄			

授業形態	講義	担当者
授業計画	1　看護研究の意義と特質　（牛込三和子） 2　文献クリティーク1　（鈴木珠水） 研究論文のクリティークについて理解する。 3　文献クリティーク2　（鈴木珠水） 研究論文をクリティークするときに必要なスキルを習得する。 4　量的研究の展開方法1　（小林亜由美） 5　量的研究の展開方法1　（小林亜由美） 6　質的研究の展開方法1　（矢島正榮） 7　質的研究の展開方法2　（矢島正榮） 8　看護学研究における倫理、看護学研究の発展　（矢島正榮）	
科目の目的	看護学領域における課題とその探求方法、看護学研究の遂行に必要な基本的知識、技術を学ぶ。	
到達目標	１．看護学研究の意義と特質を説明できる。 ２．看護学研究における着想から研究成果の公表までのプロセスと、研究成果を社会に還元する方法を説明できる。 ３．看護学研究で用いられる研究手法の特徴と具体的な展開方法を説明できる。	
成績評価方法・基準	レポート	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	配付資料、関連する文献を読んで参加してください。1コマにつき4時間程度の準備学習を求めます。	
教科書・参考書	特に定めない	
オフィス・アワー	講義の前後	
履修条件・履修上の注意	なし	

講義科目名称： 研究方法論Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： Methodology in Health Care Research II　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1	選択
担当教員	担当者		
木村　朗			

授業形態	講義と演習	担当者
授業計画	1　理学療法研究手法と研究デ ザインの変遷 北米および日本の過去5年間におけるリハ医学・理学療法に関連する学術誌に掲載された研究論文から、研究対象、研究デザインについて特徴を調べる。 2　理学療法研究手法と統計手法の変遷 北米および日本の過去5年間におけるリハ医学・理学療法に関連する学術誌に掲載された研究論文から、研究統計解析手法について特徴を調べる。 3　古典的統計手法を用いたデータ分析演習 研究室で実際に測定した、身体活動に関連する各種運動学的データの取得方法を示し、データから得られた情報の解析を行う。 4　研究疑問の構造化　　論文・データ収集と研究デザイン1 臨床疫学研究の概要を学び、学生自ら研究疑問の設定、構造化を行う。先行研究を探し、メタアナリシスを行い、研究の評価について学ぶ。 5　統計解析手法演習１ 古典的頻度主義統計手法に基づく、記述統計から推測統計を用いた理学療法に関する事象の評価を行う。 6　統計解析手法演習２ ベイズ統計手法に基づく、記述統計からシミュレーション・推測統計を用いた理学療法に関する事象の評価を行う。 7　研究疑問の構造化　　論文・データ収集と研究デザイン2 学生自ら研究疑問の設定、構造化を行った先行研究のメタアナリシスのデータを利用してベイズ推計を試みる 8　臨床疫学的手法以外の質的研究をITによって進める方法 調査研究のあらましを学ぶ。　テキストマイニングを実際に行う。	
科目の目的	主として理学療法学領域で用いられている頻出の研究デザインと統計手法を理解する。 研究疑問を構造化した上で、介入および観察を用いて、人間の運動に関する運動幾何学的分析、運動力学的分析、運動生理学的分析の観点から運動学および生体機能の情報を解析する方法の枠組みと研究の流れを理解する。	
到達目標	１．保健学、理学療法分野の研究手法の種類が説明出来る。 ２．理学療法学領域で頻度の高い研究手法について科学的根拠を示しうるデザインとは何かが説明出来る。 ３．研究デザインに適合する数値解析・統計分析手法について代表的な方法を少なくとも 3 例列挙し、説明出来るようになる。 4.ベイズ推計に基づく確率分布モデルおよび信用区間をopenBUGSを用いて求めることができるようになる。	
成績評価方法・基準	レポート50%、課題遂行に関する口頭試問50%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	テーマに関する内容に関する専門用語、概念について予め調べておくこと。　60分。	
教科書・参考書	参考書　Introduction to Research in the Health Sciences, 5e Polgar BSc(Hons) MSc, Stephen	
オフィス・アワー	授業開講期間の火曜日 授業開講期間　18 時-18 時30分	
履修条件・履修上の注意	PCを持参すること	

講義科目名称： 研究方法論Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称： Methodology in Health Care Research III　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1	選択
担当教員	担当者		
小河原　はつ江			

授業形態	オムニバス方式	担当者
授業計画	第1回　イントロダクション　免疫学分野における研究方法論 免疫学分野の研究論文から学ぶ研究方法論　担当　藤田清貴 第2回　血液学分野における研究方法論 血液学分野の研究論文から学ぶ研究方法論　担当　小河原はつ江 第3回　臨床化学分野における研究方法論 臨床化学分野の研究論文から学ぶ研究方法論　担当　亀子光明 第4回　遺伝子検査学分野における研究方法論 遺伝子検査学分野の研究論文から学ぶ研究方法論　担当　長田　誠 第5回　細胞学的分野における研究方法論 培養細胞を解析手法に用いた研究論文から学ぶ研究方法論　担当　高橋克典 第6回　細胞生物学的分野における研究方法論 細胞生物学分野の研究論文から学ぶ研究方法論　担当　白土佳子 第7回　生理機能検査学分野における研究方法論（１） 生理機能検査学分野の研究論文から学ぶ研究方法論（１）　担当　古田島伸雄 第8回　生理機能検査学分野における研究方法論（２） 生理機能検査学分野の研究論文から学ぶ研究方法論（２）　担当　古田島伸雄	
科目の目的	病因・病態検査学領域で研究を遂行するものに必要な知識，態度，技術，科学的根拠に基づく分析能力を獲得するために，各検査学分野における科学的研究の種類と特徴，問題解決のための研究方法を探求する。	
到達目標	各病因・病態検査学領域における研究方法の特徴および研究の進め方を理解し説明できる。	
成績評価方法・基準	レポートおよび出席状況から総合的に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	特に必要ない。	
教科書・参考書	特になし。 必要に応じて資料を配布する。	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。 小河原　ogawara@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意	修士課程１年生で、研究を開始する前に受講することが望ましい。	

講義科目名称： 保健学特別セミナー　　授業コード：

英文科目名称： Special Lectures on Health Science　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2	必修
担当教員	担当者		
高橋　正明			

授業形態	座学	担当者
授業計画	1回　成人看護学　（牛込三和子） 成人看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。 （特に、神経系難病疾患に関する研究について） 2回　成人看護学　（鈴木珠水） 成人看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。 （特に、環境保健、予防医学に関する研究について） 3回　（伊藤まゆみ） 老年看護学の最新の研究動向と課題について講義する。 4回　（早川有子） 5回　公衆衛生看護学（矢島正栄） 公衆衛生看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。 6回　公衆衛生看護学（小林亜由美） 公衆衛生看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。 7回　基礎運動学（高橋正明） 重力下で人は身体をいかに移動させているか。直立二足歩行を中心に。 8回　（長田　誠） 9回　（木村　朗） 臨床身体活動と健康関連事象との複合要因解析に関する最新の研究動向と争点や課題について講義する 10回　（荒木康久） 11回　病因・病態検査学（小河原はつ江） 病態血液検査学の研究動向と争点や課題について講義する。 12回　病因・病態検査学（亀子光明） 生体分子情報検査学の研究動向と争点と課題について講義する 13回　（藤田清貴） 14回　小児の運動学1　（中　徹） 小児の運動発達の現象とメカニズムに関する最新の研究動向について講義する 15回　小児の運動学2　（中　徹） 小児の運動発達の評価と治療応用に関する最新の研究動向について講義する	
科目の目的	保健学各領域の最新の研究動向と争点や課題を知り、それらの知識・情報を各自の研究のテーマや視 点や分析概念や方法の具体的検討に役立てる。	
到達目標	保健学各領域の最新の研究動向と争点や課題を知り、それらを活用して、各自の研究のテーマや視点 や分析概念や方法の具体的検討が進む。	
成績評価方法・基準	レポートを以て評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	配付資料、関連する文献を読んで参加してください。1コマにつき120分程度の事前学習を求めます。	
教科書・参考書	使用しない	
オフィス・アワー	講義の前後	
履修条件・履修上の注意	なし	

講義科目名称： 基礎看護学特論　　授業コード：

英文科目名称： Advanced Fundamental Nursing　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
上星　浩子			

授業形態	講義（9回）演習（6回）	担当者
授業計画	1　基礎看護学領域の動向と課題Ⅰ（上星・馬醫） 看護基礎教育における基礎看護学の位置づけについて学ぶ。 2　基礎看護学領域の動向と課題Ⅱ（上星・馬醫） 看護研究における基礎看護学と看護技術について学ぶ。 3　基礎看護学領域の動向と課題Ⅲ（上星・馬醫） 基礎技術に関連する研究の動向と課題について学ぶ。 4～5　看護技術に関する研究動向Ⅰ（上星） 看護技術に関する経験・体験に関連する研究について学ぶ。 看護場面での看護師の認識に関連する研究について学ぶ。 6～7　看護技術に関する研究動向Ⅱ（馬醫） 療養環境に関連する研究について学ぶ。 8～9　看護技術に関する研究動向Ⅲ（真砂） 看護学の視点における生活環境刺激と生体反応について学ぶ。 感覚機能による情動反応を促す看護療法の技術に関する研究について学ぶ。 10～14　基礎看護学領域の研究動向（上星・馬醫） 基礎看護学に関連する研究の現状について、研究論文を元に考察し、発表・討議する。 15　基礎教育における課題（上星） 看護基礎教育における基礎看護学の課題	
科目の目的	看護独自の援助法（看護技術）に関する研究の動向や課題について理解する。さらに、看護援助の効果について総合的に分析・評価するための最新の知見と新たな介入法の開発の課題について理解する。	
到達目標	1.人間・環境・健康・看護を探求する看護学の研究の動向や課題について理解する。 2.看護実践の効果を科学的に検証し、新しい看護介入方法の開発につながる研究方法並びに人間関係を基盤とする看護現象の分析に関する研究方法を学ぶ。	
成績評価方法・基準	課題に関するプレゼンテーション（80%）、課題レポート（20%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	担当となった課題に関するプレゼンテーション準備（文献検索、研究論文の講読とまとめ、発表資料作成）	
教科書・参考書	教科書:使用しない（必要に応じて資料を配布する） 参考書:授業の中で紹介する	
オフィス・アワー	担当講義の前後(上星研究室)（馬醫研究室） 個別の相談は随時E-mailでも受け付ける（jouboshi@paz.ac.jp）	
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称： 基礎看護学演習　　授業コード：

英文科目名称： Fundamental Nursing Exercise　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
上星　浩子			

授業形態	講義(1回)、演習(14回)	担当者
授業計画	1　研究課題の検討Ⅰ（上星・馬醫） オリエンテーション：演習予定および演習の進め方などについて 看護学領域と学際領域の研究課題について学ぶ。 2　研究課題の検討Ⅱ（上星・馬醫） 研究課題の絞り込みを行うため、研究動機となる事象を探索する。 3　研究課題の検討Ⅲ（上星・馬醫） 研究課題に関連する文献検索と整理を行う。 研究論文のクリティークの方法に沿って、クリティークを行う。 4～6　研究課題の検討Ⅳ～Ⅵ（上星・馬醫） 研究課題に関連する文献レビューを行い、関連する研究の概要を整理する。 研究課題および研究の意義の明確化を行う。 7～8　研究課題の検討Ⅶ～Ⅷ（上星・馬醫） 研究課題に即した研究方法の詳細を検討する。 9　研究課題の検討Ⅸ（上星・馬醫） 研究における倫理面を検討する。 10　研究計画立案Ⅰ（上星・馬醫） 研究計画書の意義を学ぶ。研究計画の流れと研究論文作成について学ぶ。 11～15　研究計画立案Ⅱ～Ⅵ（上星・馬醫） 研究計画書を段階的に作成し、計画の内容を検討する。 研究計画の発表を行う。	
科目の目的	基礎看護学特論で理解した看護援助の効果について課題別に文献考査し、先行研究の批判的考察を行い、自己の研究課題を探求する。また、研究課題を探求するための具体的な研究計画書を作成する。	
到達目標	1.研究課題を見出し、文献レビューを通して、自己の研究課題の明確化が行える。 2.研究課題に適した研究手法の選択や研究の進め方を理解できる。 3.自己の研究課題に関する研究計画書を作成できる。	
成績評価方法・基準	文献レビューのプレゼンテーション（30%）、課題レポート（20%）、研究計画書（50%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	文献レビューに関するプレゼンテーション準備（文献検索、研究論文の講読とまとめ、発表資料作成） 課題レポートの準備（研究方法等に関する文献の整理とまとめ） 研究計画書作成の準備（文献検索、文献の講読とまとめ、演習進度に応じた発表資料の作成）	
教科書・参考書	教科書：黒田裕子の看護研究Step by Step （医学書院） 参考書：授業の中で紹介する	
オフィス・アワー	講義の前後(上星研究室) （馬醫研究室） 個別の相談は随時E-mailでも受け付ける（jouboshi@paz.ac.jp）	
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称： 基礎看護学特別研究　　授業コード：

英文科目名称： Fundamental Nursing Reserch　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10	選択
担当教員	担当者		
小林　亜由美			

授業形態	実験、実習	担当者
授業計画	1　文献検索、課題抽出 2　研究計画立案 3　倫理審査申請書類の作成、受審 4　アンケートの実施 5　データ入力、クリーニング 6　データ分析 7　論文作成 8　論文発表	
科目の目的	基礎看護学と関連領域に関する深い洞察に基づいて抽出された研究課題を科学的に探求することをとおし、看護学研究を遂行する能力、及び看護学研究における科学的かつ倫理的態度を身につける。	
到達目標	1.基礎看護ならびに関連領域における文献検討や情報収集により、研究課題を抽出できる。 2.研究課題を踏まえて研究目的を設定するとともに、目的達成のための研究計画を立案できる。 3.研究計画に沿って、研究データの収集、分析、考察を行い、研究論文にまとめることができる。 4.看護学研究を通して、科学的思考、倫理的態度が身につく。	
成績評価方法・基準	審査基準に基づき、審査により決定する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	なし	
教科書・参考書	なし	
オフィス・アワー	平日12:10～13：00、16：20～18:00	
履修条件・履修上の注意	なし	

講義科目名称： 成人看護学特論　　授業コード：

英文科目名称： Advanced Adult Nursing　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
牛込　三和子			

授業形態	講義とプレゼンテーション、ディスカッション	担当者
授業計画	第1回　成人看護学特論の展開について　（牛込、鈴木、萩原） 成人看護学特論で学ぶ内容及び第2回以降の授業の進め方についての説明。 第2回　成人看護学の研究動向　（牛込、鈴木、萩原） 成人看護学の研究動向、成人看護学特論について 第3回　医療対策の動向1 、成人看護の動向1　（牛込） 医療提供体制、在宅医療 第4回　医療対策の動向2 成人看護の動向2　（牛込） 難病対策、難病看護 第5回　保健と医療の動向1　（鈴木） 生活習慣病対策 第6回　成人看護の動向3　（鈴木） 慢性病看護 第7回　保健と医療の動向2　（萩原） がん対策 第8回　成人看護の動向4　（萩原） がん看護 第9回　成人看護の動向5　（酒井） 看護の専門性 第10回　保健と医療の動向3　（酒井） 看護の法、制度 第11回　成人看護の動向6　（鈴木） リハビリテーション看護 第12～13回　成人看護の動向7、8　（島田） 外来看護と看護外来 第14回　成人看護学基礎教育の現状と課題1　（牛込、萩原） カリキュラム、教育に関して 第15回　成人看護学基礎教育の現状と課題2　（鈴木、萩原） 臨地実習、新人教育に関して	
科目の目的	成人看護学の対象となる主な疾病の保健と医療の動向および医療対策、専門的看護実践の基礎となる、対象理解、アセスメント、看護技術、支援システム、家族支援について理解し、今日的課題をみいだす。また、成人看護学基礎教育のカリキュラムと臨地実習について現状と課題について理解を深める。	
到達目標	1) 生活習慣病、がん、難病の保健と医療の動向を理解する。 2) 成人看護の動向を理解する。 3) 成人看護学基礎教育のカリキュラム、臨地実習について現状と課題を理解する。	
成績評価方法・基準	課題についてのプレゼンテーションと討議内容50%、レポート50%。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	プレゼンテーションの事前準備として約5時間前後の時間を必要とする。	
教科書・参考書	国民衛生の動向2015／2016年版。その他必要に応じて提示する。 参考書は適宜授業中に紹介する。	
オフィス・アワー	授業の前後	
履修条件・履修上の注意	主体的に取り組むこと。	

講義科目名称： 成人看護学演習　　授業コード：

英文科目名称： Practice in Adult Nursing　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
牛込　三和子			

授業形態	講義、プレゼンテーション、ディスカッション	担当者
授業計画	第1回　研究課題の検討1　（牛込、鈴木、萩原） オリエンテーション、看護学領域と学際領域の研究課題 第2回　研究課題の検討2　（牛込、鈴木、萩原） 研究テーマの探索 第3回　研究課題の検討3　（鈴木） 文献検索と整理、研究論文のクリティークの方法 第4回　研究課題の検討4　（鈴木、萩原） 研究課題と研究方法1. 第5回　研究課題の検討5　（鈴木） 研究課題と研究方法2. 第6回　研究課題の検討6　（鈴木、萩原） 研究における倫理面の検討 第7回　研究課題の検討7　（萩原） 研究課題に関連する文献レビュー1. 第8回　研究課題の検討8　（萩原） 研究課題に関連する文献レビュー2. 第9回　研究課題の検討9　（鈴木） 研究課題に関連する文献レビュー3. 第10回　研究計画立案1　（萩原） 研究計画書の作成 第11回　研究計画立案2　（鈴木） 研究計画書の作成 第12回　研究計画立案3　（萩原） 研究計画書の作成 第13回　研究計画立案4　（鈴木） 研究計画書の作成 第14回　研究計画立案5　（牛込、鈴木、萩原） 研究計画書の作成 第15回　研究計画立案6　（牛込、鈴木、萩原） 研究計画書の発表	
科目の目的	がん、慢性病、難病等を持つ患者、急性期治療を要する患者等に対する最新の看護知見、社会支援システム、成人看護学教育のありかたについて、国内外の文献抄読、各自の実践報告などを通して、実践・研究の現状を学び、各自の研究計画を作成する。	
到達目標	1）文献抄読を通して成人看護学領域における研究の最新の知見を学ぶ。 2）自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成できる。	
成績評価方法・基準	各自の設定した課題に基づいて立案した研究計画書100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	文献検索や、文献を読み込む時間、研究計画の原案の作成など大変時間を要するため、一つ一つの作業を積み重ねていくことが重要となる。	
教科書・参考書	教科書：指定せず（必要に応じて資料を配布する）。 参考書：授業の中で適宜紹介する。	
オフィス・アワー	授業の前後	
履修条件・履修上の注意	研究計画書作成は、時間を要するため、計画的に進めていくこと。	

講義科目名称： 成人看護学特別研究　　授業コード：

英文科目名称： Adult Nursing Reserch　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10	選択
担当教員	担当者		
牛込　三和子・鈴木　珠水			

授業形態		担当者
授業計画		
科目の目的		
到達目標		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書・参考書		
オフィス・アワー		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 老年看護学特論　　授業コード：

英文科目名称： Advanced Gerontological Nursing　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
伊藤　まゆみ			

授業形態	講義　担当課題のプレゼンテーションと討議	担当者
授業計画	1　コースガイダンス　（伊藤　まゆみ　根生　とき子） コース概要、学習の進め方、受講にあたっての自己課題 2　老年看護学特論の概要　（伊藤　まゆみ） 老年看護学の概念、老年看護学の歴史的変遷 3　老年期の発達理論　（伊藤　まゆみ） 老化理論とエイジング、老年期の発達理論の新しい考え方 4　高齢者の健康問題　（伊藤　まゆみ） からだ・こころ・社会的側面からみた高齢者特有の健康問題 5　健康増進活動とメンタルヘルス　（伊藤 まゆみ） 高齢者における健康増進活動の可能性とその効果、高齢者とうつ病 6　高齢者の健康障害と看護Ⅰ　（伊藤 まゆみ） 急性・慢性の健康障害 7　高齢者の健康障害と看護Ⅱ　（伊藤 まゆみ） せん妄 8　高齢者の健康障害と看護Ⅲ　（伊藤 まゆみ） 認知症 9　高齢者のエンドオブライフ・ケア　（根生　とき子） 人生の最終生期における看護の意義と責務、倫理的課題 10　高齢者をとりまく社会、制度・政策と看護①　（柏木　とき江） 超高齢社会における制度・政策と看護への期待 11　高齢者をとりまく社会、制度・政策と看護②　（柏木　とき江） 地域における認知症ケアシステムの構築 12　高齢者ケアの倫理的課題　（伊藤 まゆみ） 高齢者と人権、成年後見制度、高齢者虐待、身体拘束 13　高齢者ケアと看護管理　（関　妙子） 高齢者医療・ケアにおける看護管理の現状と課題 14　老年看護学教育Ⅰ　（伊藤 まゆみ　根生とき子） 看護基礎教育における老年看護学教育 15　老年看護学教育Ⅱ　（青柳　直樹） 現任教育における老年看護学教育	
科目の目的	老年看護の実践の基礎となる、対象理解、支援・評価方法の理論と技術、高齢者医療を取り巻く制度、政策、及び今日的課題を学ぶ。さらに老年看護学の教育方法と研究指導方法についての理解を深める。	
到達目標	１）高齢者の加齢に伴う変化と、からだ・こころの健康問題について理解する。 ２）高齢者看護の最新の知識とエビデンスに基づいた看護支援方法について理解する。 ３）老年看護学の教育方法、研究指導方法に関する理解を深め、自己の課題を見いだす。	
成績評価方法・基準	講義への出席状況、分担課題についてのプレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	担当課題が決定したら、文献・資料等を活用し、プレゼンテーションを行う準備をする。１課題につき、２～３時間の準備時間を目安とする。	
教科書・参考書	教科書　なし 参考書　エイジング心理学、谷口幸一・佐藤眞一編著、北大路房	
オフィス・アワー	前期：授業開催曜日の17時以降、土曜日 後期：授業開催土曜日の9-12時	
履修条件・履修上の注意	討議を中心に進行するので、やむを得ず出席できない回についてはあらかじめ教員に相談し、授業日程を変更する。	

講義科目名称： 老年看護学演習　　授業コード：

英文科目名称： Practice in Gerontological Nursing　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
伊藤　まゆみ			

授業形態	講義　ディスカッション	担当者
授業計画	1　コースガイダンス　（伊藤まゆみ　根生とき子） 授業の進め方、研究計画立案から論文作成まで 2　研究の進め方Ⅰ　（伊藤 まゆみ） 研究課題の探索、文献検索と抄読の方法 3　研究の進め方Ⅱ　（伊藤 まゆみ） 研究方法について① 4　文献レビューⅠ　（伊藤 まゆみ） 研究課題に関連した文献レビュー 5　研究の進め方Ⅲ　（伊藤 まゆみ） 研究方法について② 6　文献レビューⅡ　（伊藤 まゆみ） 研究課題に関連した文献レビュー 7　研究の進め方Ⅳ　（伊藤 まゆみ） 研究における倫理の問題 8　文献レビューⅢ　（伊藤 まゆみ） 研究課題に関連した文献レビュー 9　文献レビューⅣ　（伊藤 まゆみ） 文献レビューのまとめ 10　研究計画Ⅰ　（伊藤まゆみ　根生とき子） 研究計画書の作成方法 11　研究計画Ⅱ　（伊藤まゆみ　根生とき子） 研究課題の焦点化、研究目的 12　研究計画Ⅲ　（伊藤まゆみ　根生とき子） 研究デザイン・方法 13　研究計画Ⅳ　（伊藤まゆみ　根生とき子） 研究実施計画 14　研究計画Ⅴ　（伊藤まゆみ　根生とき子） 倫理面の検討 15　研究計画Ⅵ　（伊藤まゆみ　根生とき子） 研究計画の発表と討議	
科目の目的	老年看護学に関する課題とその動向を概説し、自己の研究課題を探求する。また、課題探求のための具体的な計画書が作成できる。	
到達目標	１）文献レビュー、実践活動の分析から自己の研究課題を見いだすことができる。 ２）課題探求のための研究デザイン、方法について追求できる。 ３）研究計画書が作成できる。	
成績評価方法・基準	出席状況、文献レビュー・実践活動からの課題についてのプレゼンテーションとレポート、研究計画書の作成過程を総合的に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	研究課題決定のための文献レビューが重要となる。日頃から関心のある分野・テーマに関する文献を入手し、読み込んでおく。また、関心のある学会・研究会等への積極的な参加を推奨する。	
教科書・参考書	教科書　看護研究 step by step　黒田裕子著、学研 参考書　看護研究－原理と方法第2版、D.F.ポーリット著、近藤潤子監訳、医学書院 看護研究計画書－作成の基本ステップ、小玉香津子訳、日本看護協会出版会	
オフィス・アワー	前期：授業開催曜日の17時以降、土曜日 後期：授業開催土曜日の9-12時	
履修条件・履修上の注意	授業時のみでなく、授業時間外にも必要があれば教員と連絡をとり、自律的な学習姿勢をもって取り組むことを期待します。	

講義科目名称：　老年看護学特別研究　　授業コード：

英文科目名称：　Gerontological Nursing Reserch　　対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10	選択
担当教員	担当者		
伊藤　まゆみ			

授業形態	課題検討、研究計画書作成、倫理審査申請書作成、データ収集、分析、論文作成、発表	担当者
授業計画	１年次２月　研究計画書提出 １年次３月　研究計画書検討会 ２年次５月　倫理審査申請書提出、審査受審 ２年次６月　対象施設倫理審査提出、審査受審 ２年次７月　データ収集 ２年次10月　分析、考察、論文作成 ２年次12月　論文提出 ２年次１月　論文審査 ２年次２月　論文発表会	
科目の目的	１．老年看護学領域における自己の研究課題を明確にし、研究計画に沿って研究を遂行する能力を養う。 ２．研究における倫理的課題を理解し、倫理観に基づいて研究を遂行できる能力を養う。	
到達目標	１．文献検討、資料収集、討議をとおして、老年看護学領域における自己の研究課題を明らかにする。 ２．課題遂行のための研究計画書を作成できる。 ３．研究課題から導かれる倫理的課題を検討し、研究倫理審査申請を行い、認証を受ける。（本大学院、当該施設） ４．科学的思考に基づきデータ収集、分析、考察を行い、論文にまとめる。 ５．論文審査において、審査教教員の指導、助言を得て、論文を修正できる。 ６．規定に沿った方法で論文を発表する。	
成績評価方法・基準	審査基準に基づき、複数の教員の審査により評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	なし	
教科書・参考書	なし	
オフィス・アワー	平日17:00-18:00　土曜日9:00-17:00	
履修条件・履修上の注意	指導教員とコミュニケーションを図りながら、具体的なタイムスケジュールに沿って進めていく。	

講義科目名称： 母性看護学・助産学特論　　授業コード：

英文科目名称： Advanced Maternity Nursing and Midwifery　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
早川　有子			

授業形態	講義　演習	担当者
授業計画	１-2　母子の健康課題Ⅰ（早川） 母子に関する今日的課題（国内） 母子に関する今日的課題（国外）　早川 ３-4　母子の健康問題Ⅱ（早川　中島） 母性看護・助産ケアのエビデンス ５-6　母子の健康課題Ⅲ（臼井） 切迫早産と胎児への愛着との関連 母乳育児とうつとの関連 7　母子の健康課題Ⅳ（早川） 母乳栄養と育児支援　実験研究 ８-9　母子の健康科学Ⅴ（中島） 周産期のメンタルヘルス 10　母子の健康科学Ⅵ（中島） 母性看護学実習、助産実習の現状と課題 11-12　母子の健康科学Ⅶ（臼井） 保育施設における母乳育児支援の現状 母乳育児についてのディスカッション 13-15　母子の健康科学Ⅷ（早川） DV・ 性同一性障害・不妊症と看護・母子の感染症の現状と今後の課題	
科目の目的	女性のライフステージ各期における健康問題と看護について、最新の知見から理解を深め、それらを土台に女性や子ども家族をめぐる今日的課題を考える。	
到達目標	・女性のライフステージ各期における健康問題と看護及び助産ケアのあり方について理解する。 ・看護師/助産師が果たす役割を理解し、自己の知見を深める。	
成績評価方法・基準	発表・討議（50%）課題（50%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各項目について、課題を持って講義に臨むこと	
教科書・参考書	必要時提示	
オフィス・アワー	講義前後　昼休み　放課後	
履修条件・履修上の注意	母性看護・助産学領域を専攻する学生	

講義科目名称：　母性看護学・助産学演習　　授業コード：

英文科目名称：　Practices in Maternity Nursing and Midwifery　　対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
早川　有子			

授業形態	演習	担当者
授業計画	1　研究課題の検討Ⅰ（早川　中島　臼井） 研究の概要 2　研究課題の検討Ⅱ（早川　中島　臼井） 研究テーマの絞り込み 3　研究課題の検討Ⅲ（早川　中島　臼井） 文献検索　文献の整理 4　研究課題の検討Ⅳ（早川　中島　臼井） 文献検索と文献検討　1 5　研究課題の検討Ⅴ（早川　中島　臼井） 文献検索と文献検討　2 6　研究課題の検討Ⅵ（早川　中島　臼井） 文献検索と文献検討　3　研究テーマの決定 7　研究課題の検討Ⅶ（早川　中島　臼井） 研究枠組みと研究計画書　研究デザイン 8　研究計画書　1（早川　中島　臼井） 方法１：対象者の選定　データ収集方法　倫理要領など 9　研究計画書　2（早川　中島　臼井） 方法２：対象者の選定　データ収集方法　倫理要領など 10　研究計画書　3（早川　中島　臼井） 方法３：質問紙の作成の実際　1 11　研究計画書　4（早川　中島　臼井） 方法４：質問紙の作成の実際　2 12　研究計画書５（早川　中島　臼井） 方法５：データ登録・分析の実際　1 13　研究計画書６（早川　中島　臼井） 方法６：データ登録・分析の実際　2 14　研究計画書　7（早川　中島　臼井） 研究計画書ほぼ完成 15　論文の書き方　&　研究計画書（早川　中島　臼井） 論文の書き方　研究計画書完成	
科目の目的	母性看護学/助産学に関する最新の看護知見・社会支援・教育について、国内外の文献抄録、各自の実践報告などを通して、研究の現状を学び、各自の研究計画書を作成する。	
到達目標	・文献抄録を通して母性看護学/助産学領域における研究の最新の知見を学ぶ。 ・自己の研究課題を明確にし、研究課題に適した研究手法の選択や研究の進め方を理解し、研究計画書を作成 できる。	
成績評価方法・基準	発表・討議（50%）計画書（50%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各項目ごとに十分な準備をして講義に臨むこと。	
教科書・参考書	参考書　看護研究step by step 黒田裕子　医学書院 パソコンで進める　やさしい看護研究　冨田真佐子　ohmsha　社 看護研究入門　実施・評価・活用　ナンシー・バーンズ他　エルゼビア・ジャパン	
オフィス・アワー	講義開講日	
履修条件・履修上の注意	母性看護・助産学領域を専攻する学生	

講義科目名称： 母性看護学・助産学特別研究　　授業コード：

英文科目名称： Maternity Nursing and Midwifery Researches　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10	選択
担当教員	担当者		
早川　有子			

授業形態		担当者
授業計画		
科目の目的		
到達目標		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書・参考書		
オフィス・アワー		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 公衆衛生看護学特論　　授業コード：

英文科目名称： Advanced Public Health Nursing　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
矢島　正栄			

授業形態	講義	担当者
授業計画	1　公衆衛生看護学の理念と目的　（矢島　正榮） 公衆衛生看護学の理念 2　公衆衛生看護学の理念と目的　（矢島　正榮） 公衆衛生行政と公衆衛生看護の役割 ３　公衆衛生看護の対象の理解1　（矢島　正榮） 個人、家族を対象とした公衆衛生看護の理論と技術 ４　公衆衛生看護の対象の理解2　（矢島　正榮） 集団､地域を対象とした公衆衛生看護の理論と技術 ５　公衆衛生看護活動の展開1　（矢島　正榮） 地域把握、地域診断の方法 ６　公衆衛生看護活動の展開2　（矢島　正榮） 公衆衛生看護活動の計画立案、評価の方法 ７　公衆衛生看護技術1　（矢島　正榮） 健康相談、家庭訪問、健康診査の運営 ８　公衆衛生看護技術2　（矢島　正榮） 健康教育、地区組織活動支援 ９　対象別公衆衛生看護実践方法　（矢島　正榮、奥野みどり） 母子保健活動のの現状と課題 10　対象別公衆衛生看護実践方法　（小林　亜由美） 成人・高齢者保健活動の現状と課題 11　対象別公衆衛生看護実践方法　（矢島　正榮） 精神保健活動・難病対策の現状と課題 12　職域別公衆衛生看護実践方法Ⅰ　（廣田　幸子） 産業保健活動の展開方法、産業保健の現状と今後の課題 13　職域別公衆衛生看護実践方法Ⅱ　（中下　富子） 学校保健活動の展開方法、学校保健の現状と今後の課題 14　健康危機管理　（矢島　正榮） 地域社会における気考危機管理の課題と公衆衛生看護学に関する研究論文の抄読 15　公衆衛生看護学教育　（矢島　正榮） 公衆衛生看護学の基礎教育及び現任教育の役割と課題	
科目の目的	地域社会の健康レベル向上に関わる看護の理論と技術、対象別の公衆衛生看護実践方法、保健医療福祉の連携とシステム化について教授する。また、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発と施策への反映、ヘルスプロモーションの推進における公衆衛生看護の役割について教授する。さらに、公衆衛生看護学教育の歴史と展望、公衆衛生看護学の基礎教育及び現任教育の役割と課題、公衆衛生看護管理について教授する。	
到達目標	１）地域社会の健康レベル向上に関わる看護の理論、ヘルスプロモーションの推進における公衆衛生看護の役割について理解できる。 ２）対象別の公衆衛生看護実践方法、保健医療福祉の連携とシステム化の意義と方法、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発と施策への反映の方法がわかる。 ３）公衆衛生看護学教育の歴史をふまえた基礎教育及び現任教育の役割と課題がわかる。	
成績評価方法・基準	レポート	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	配付資料、関連する文献を読んで参加してください。1コマにつき4時間程度の事前学習を求めます。	
教科書・参考書	教科書 指定せず（必要に応じて資料を配布する） 参考書 授業の中で紹介する	
オフィス・アワー	講義の前後	
履修条件・履修上の注意	なし	

講義科目名称： 公衆衛生看護学演習　　授業コード：

英文科目名称： Practice in Public Health Nursing　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
矢島　正栄			

授業形態	演習	担当者
授業計画	1　オリエンテーション　（矢島正栄・小林亜由美・廣田幸子・笠井秀子・奥野みどり） オリエンテーション 2　研究の進め方Ⅰ　（矢島正栄・小林亜由美・廣田幸子・笠井秀子・奥野みどり） 研究計画立案から論文作成まで 3　研究の進め方Ⅱ　（矢島正栄・小林亜由美・廣田幸子・笠井秀子・奥野みどり） 研究デザイン・研究方法の理解 4　研究の進め方Ⅲ　（矢島正栄・小林亜由美・廣田幸子・笠井秀子・奥野みどり） 研究デザイン・研究方法の理解 5　文献抄読　（矢島正栄・小林亜由美・廣田幸子・笠井秀子・奥野みどり） 研究課題に関連した文献の抄読 6　文献抄読　（矢島正栄・小林亜由美・廣田幸子・笠井秀子・奥野みどり） 研究課題に関連した文献の抄読 7　文献抄読　（矢島正栄・小林亜由美・廣田幸子・笠井秀子・奥野みどり） 研究課題に関連した文献の抄読 8　文献抄読　（矢島正栄・小林亜由美・廣田幸子・笠井秀子・奥野みどり） 研究課題に関連した文献の抄読 9　研究計画の検討Ⅰ　（矢島正栄・小林亜由美・廣田幸子・笠井秀子・奥野みどり） 研究課題・目的・研究デザイン 10　研究計画の検討Ⅰ　（矢島正栄・小林亜由美・廣田幸子・笠井秀子・奥野みどり） 研究課題・目的・研究デザイン 11　研究計画の検討Ⅱ　（矢島正栄・小林亜由美・廣田幸子・笠井秀子・奥野みどり） 研究方法 12　研究計画の検討Ⅱ　（矢島正栄・小林亜由美・廣田幸子・笠井秀子・奥野みどり） 研究方法 13　研究計画の検討Ⅲ　（矢島正栄・小林亜由美・廣田幸子・笠井秀子・奥野みどり） 研究実施計画 14　研究計画の検討Ⅲ　（矢島正栄・小林亜由美・廣田幸子・笠井秀子・奥野みどり） 研究実施計画 15　研究計画の検討Ⅳ　（矢島正栄・小林亜由美・廣田幸子・笠井秀子・奥野みどり） 研究計画の発表	
科目の目的	公衆衛生看護学に関する研究の動向を理解し、自己の研究課題を探求する。また、研究課題探求のための具体的な方法を理解する。	
到達目標	１）公衆衛生看護学研究に用いられる手法とその特質がわかる。 ２）公衆衛生看護学領域における研究の動向がわかる。 ３）自らの研究課題探求のために適切な研究デザインを選択し、研究計画を立案することができる。	
成績評価方法・基準	レポート	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各自、必要な資料を作成して参加してください。1コマにつき1時間程度の準備学習を求めます。	
教科書・参考書	教科書 黒田裕子の看護研究Step by Step （医学書院）	

	参考書 授業の中で紹介する
オフィス・アワー	講義の前後
履修条件・履修上の注意	なし

講義科目名称： 公衆衛生看護学特別研究　　授業コード：

英文科目名称： Public Health Nursing Reserch　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10	選択
担当教員	担当者		
矢島　正栄・小林　亜由美			

授業形態	実験、実習	担当者
授業計画	公衆衛生看護学、在宅看護学に関する研究 公衆衛生看護学演習での学習を踏まえ、研究計画立案、研究倫理審査受審、研究実施、論文作成の一連の過程を実施する。	
科目の目的	公衆衛生看護、在宅看護と関連領域に関する深い洞察に基づいて抽出された研究課題を科学的に探求することをとおし、看護学研究を遂行する能力、及び看護学研究における科学的かつ倫理的態度を身につける。	
到達目標	1.公衆衛生看護、在宅看護とそれに関連する文献検討を踏まえ、研究課題を抽出できる。 2.研究課題の探求に適する方法を選択し、研究計画を立案できる。 3.科学的、論理的思考に基づいて研究データの収集、分析、考察を行い、研究論文にまとめることができる。 4.看護学研究における科学的態度、倫理的態度を説明できる。	
成績評価方法・基準	審査基準に基づき、審査により決定する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	なし	
教科書・参考書	なし	
オフィス・アワー	平日17:00～18:00、土曜日9:00～17:00	
履修条件・履修上の注意	なし	

講義科目名称： 小児看護学特論　　授業コード：

英文科目名称： Advanced Pediatric Nursing　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
野田　智子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	1　ガイダンス 小児看護学特論Ｉの到達目標、内容、方法、評価、日程についての確認 2　子ども観の変遷と子どもと家族を取り巻く社会状況 わが国の子ども観の変遷と児童憲章、児童の権利に関する条約の批准について 子どもと家族を取りまく社会状況について 3　発達理論の活用① フロイトの性的発達段階説について ピアジェの認知的発達理論について 4　発達理論の活用② エリクソンの生涯発達理論について ハヴィガーストの発達課題について ボウルビーの愛着理論について 5　家族理論の活用 家族システム理論について 家族ストレス対処理論について 家族発達理論について 6　小児各期の成長・発達と発達課題および生活① 乳児期と幼児期の成長・発達と発達課題および生活について 7　小児各期の成長・発達と発達課題および生活② 学童期と思春期の成長・発達と発達課題および生活について 8　小児看護における倫理と倫理的課題 小児看護実践における倫理に関する法令について 小児看護研究における倫理について 9　子どもを取り巻く制度・政策・体制① 子どもに関連した法令について 子どもに関連した保健医療制度について １０　子どもを取り巻く制度・政策・体制② 子どもに関連した福祉制度について 子どもに関連した教育制度について １１　子どもの保健医療環境の課題① 小児救急における保健医療環境の現状と課題について 小児在宅医療における保健医療環境の現状と課題について １２　子どもの保健医療環境の課題② 障がい児医療における保健医療環境の現状と課題について 虐待対策における保健医療環境の現状と課題について １３　関連領域の職種理解と連携 子どもの保健医療に関連する職種の役割について 子どもの保健医療に関連する職種との連携の現状と課題について １４　小児看護専門職として必要な機能と役割 コンサルテーション、コーディネーション、ケアシステム、ケアマネージメントにおける小児看護の役割について １５　小児保健・看護に関する最近の研究の動向と課題 文献検索を通して小児保健・看護に関する最近の研究の動向と課題を明らかにする	
科目の目的	さまざまな健康レベルと発達段階にある子どもの生涯を見通した子どもと家族のwell-beingの実現をめざすための、小児看護の専門的役割と実践能力を修得する。	
到達目標	1. 子どもと家族をアセスメントするための諸理論について説明できる。 2. 小児看護の現状分析に基づいた支援について説明できる。 3. 保健・福祉・教育が協働するための意義と小児看護の専門的な役割を探求することができる。	
成績評価方法・基準	毎回の授業への取り組み姿勢（45%）、レポート（55%）	

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習としてテーマと関連する情報を調べる。（90分） 事後学習として。テーマのまとめを行う。（90分）
教科書・参考書	教科書：使用しない。 参考書：随時提示する。
オフィス・アワー	授業日の休憩時間
履修条件・履修上の注意	主体的に学習することを希望します。

講義科目名称： 精神看護学特論　　授業コード：

英文科目名称： Advanced Psychiatric Nursing　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
村松　仁			

授業形態	講義	担当者
授業計画	1　精神看護学特論の概要　（村松　仁） 精神看護学の概念及び精神看護学と研究をとりまく最近の動向 2　精神の健康Ⅰ（村松　仁） 精神看護学における健康の概念１ 3　精神の健康Ⅱ（村松　仁） 精神看護学における健康の概念２ 4　精神健康と看護Ⅰ（村松　仁） 生物学的説明による精神機能 5　精神健康と看護Ⅱ（村松　仁） 精神力動論による精神機能 6　精神健康と看護Ⅲ（村松　仁） 日常生活と精神機能－危機理論－ 7　精神健康と看護Ⅳ（村松　仁） 日常生活と神機能－セルフケアモデル－ 8　精神健康と看護Ⅴ（村松　仁） 精神健康と家族支援 9　精神看護の展開Ⅰ（村松　仁） 心理社会的リハビリテーションと看護11 10　精神看護の展開Ⅱ（村松　仁） 心理社会的リハビリテーションと看護2 11　社会における精神看護Ⅰ（村松　仁） アディクション（嗜癖関連問題）と看護１ 12　社会における精神看護Ⅱ（村松　仁） アディクション（嗜癖関連問題）と看護２ 13　社会における精神看護Ⅲ（村松　仁） 精神医療保健福祉における現状と課題 14　全人的な精神健康と看護　（近藤浩子） リラクセーション１ 15　全人的な精神健康と看護（近藤浩子） リラクセーション２	
科目の目的	ひとのからだとこころの理解を深め、精神看護の実践の基礎となる対象理解のための理論、実践の場で行う援助技術について学ぶ。また高齢者のこころの健康を支援するための行政、地域社会の役割と課題について理解を深める。さらに精神看護学の教育方法と研究指導方法についての理解を深める。	
到達目標	1)精神看護学で用いる基礎理論について理解する。 2)精神看護の実践に必要な援助技術、医療制度・政策の現状と課題について理解する。 3)精神看護学の教育方法、研究指導方法に関する理解を深め、自己の課題を見いだす。	
成績評価方法・基準	講義への出席状況、分担課題についてのプレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：各講義日の講義内容について研究論文，参考図書を講読し，学習内容を把握し，疑問点等を抽出する（約１時間） 復習：講義終了後に，講義内容の再確認及び疑問点を抽出し，疑問点について調べる（約１時間）	
教科書・参考書	教科書：指定せず（必要に応じて資料を配付する） 参考書：適宜紹介する	
オフィス・アワー	講義後	
履修条件・履修上の注意	自己の経験や精神医療看護に関するトピックスなどを手がかりに主体的に受講すると学びが深まると思います。	

講義科目名称：　在宅看護学特論　　授業コード：

英文科目名称：　Advanced Home Care Nursing　　対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
笠井　秀子			

授業形態	講義（１５）　演習	担当者
授業計画	１　オリエンテーション　笠井秀子 授業の目的、すすめ方について説明。　テーマ「質の高い在宅看護とは」について文献検索を行い、自身の考え方をまとめておく ２　質の高い在宅看護とは　笠井秀子 「私が考える質の高い看護とは」レポート提出 ３　アセスメント技術とケアマネジメント及びケアシステム構築（Ⅰ）　笠井秀子 呼吸障害の場合（事例から学ぶ） ４　アセスメント技術とケアマネジメント及びケアシステム構築（Ⅱ）　笠井秀子 嚥下障害の場合（事例から学ぶ） ５　アセスメント技術とケアマネジメント及びケアシステム構築（Ⅲ）　笠井秀子 自律神経障害（事例から学ぶ）　「アセスメント技術とケアマネジメント、ケアシステム構築」についてレポート提出 ６　状態像に応じた在宅看護（Ⅰ）　梨木恵実子 呼吸器疾患の療養者に対する在宅看護の展開 ７　状態像に応じた在宅看護（Ⅱ）　堀　美佐子 小児の療養者に対する在宅看護の展開 ８　状態像に応じた在宅看護（Ⅲ）　笠井秀子 難病療養者に対する在宅看護の展開 ９　状態像に応じた在宅看護（Ⅳ）　笠井秀子 エンドオブライフケアの実践（事例から学ぶ）　事例から「状態像に応じた在宅看護の展開について」どう考えるかレポート提出 １０　療養環境整備、多職種連携（Ⅰ）　浅田春美 在宅リハビリテーション支援と多職種連携・療養環境整備におけるＰＴの役割 １１　療養環境整備、多職種連携（Ⅱ）　富田千恵子 退院調整の内容、地域連携における現状と課題 １２　在宅看護と諸制度　笠井秀子 在宅看護に必要な諸制度の現状と課題について １３　在宅看護と家族支援　笠井秀子 介護力の査定と家族支援 １４　在宅看護の評価・管理（Ⅰ）　小笠原映子 ストラクチャー、プロセス、アウトカムの側面から考える評価の在り方 １５　在宅看護の評価と管理（Ⅱ）　小笠原映子、笠井秀子 「在宅看護の評価と管理」についてデイスカッション　レポート提出	
科目の目的	質の高い在宅看護を提供するために必要な条件とは何かを多角的な視点で教授する。またエビデンスに基づいた在宅看護に必要なアセスメント技術、看護技術、家族支援、在宅ケアシステムの構築に関する理論と方法について教授する。さらに、在宅看護の評価、質の保証と管理について教授する。	
到達目標	１．療養者・家族・療養環境・社会資源等の側面から安全な療養支援体制整備のための理論とアセスメント方法及び訪問 看護の役割がわかる。 ２．フィジカルアセスメントとケアマネジメント及びケアシステムの構築・多職種連携の理論と方法がわかる。 ３．在宅看護の評価・管理方法がわかる。 ４．在宅看護をめぐる社会的背景から現状と課題がわかる。	
成績評価方法・基準	レポート（９０％）、演習・ディスカッションの内容（１０％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	第1回目のオリエンテーションで各自に準備していただくことを明示します。概ね１コマにつき１時間程度の準備学習を求めます。	
教科書・参考書	指定はしません。授業の中で資料を配布します。参考書は授業の中で紹介します。	
オフィス・アワー	講義の前後	
履修条件・履修上の注意	なし	

講義科目名称： 基礎理学療法学特論　　授業コード：

英文科目名称： Advanced Physical Therapy Science　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
高橋　正明			

授業形態	座学、演習	担当者
授業計画	1回　6/7 7限　コースオリエンテーション　（高橋 正明） 内容、課題、英文講読資料の説明 2回　6/14 6限　基礎運動学特論１　（高橋正明） 人の運動の特異性について進化の側面、機能構造的見方について 3回　6/14 7限　基礎運動学特論２　（高橋正明） 基本動作の生体力学　力のモーメント（てこ）　慣性モーメント 4回　6/21 6限　基礎運動学特論３　（高橋正明） 運動連鎖について 5回　6/21 7限　基礎運動学特論４　演習　（高橋正明） 運動学授業の構築　獲得すべきコンピテンシーと到達目標　（高橋正明） 6回　6/28 6限　基礎運動学特論５　（高橋正明） 基本動作の一つを選び、教育のためのコンピテンシーをKJ法で抽出し、到達目標を書く。 7回　6/28 7限　基礎運動学特論　（江口勝彦） 文献・論文の読み方 1 8回　7/5 6限　基礎理学療法研究　（江口勝彦） 文献・論文の読み方 2 9回　7/5 7限　基礎理学療法研究入門１　（江口勝彦） 論理学入門 1 10回　7/12 6基礎理学療法研究入門２　（江口勝彦） 論理学入門 2 11回　7/12 7限　基礎運動学特論　演習　（高橋、江口） 教育課題の発表 12回　7/19 6限　基礎理学療法研究入門３　（城下貴司） 「足の研究」 入門１ 13回　7/19 7限　基礎理学療法研究入門４　（城下貴司） 「足の研究」 入門2 14回　7/26 6限　外国語文献講読3　（高橋 正明） Muscle に関する英語文献の講読 院生発表 15回　7/27 7限　国語文献講読4　（高橋 正明） Muscle に関する英語文献の講読 院生発表	
科目の目的	理学療法学研究に資する基礎理学療法学に関する知識の涵養・概念の整理	
到達目標	人体における基本的運動・動作を力学的に説明できること。このことを理学療法教育において教える ための授業計画を立案できること。PT 関連の研究文献を論理的かつ批評的に読めること。PT 関連領域 を研究の現状と今後について説明できること。	
成績評価方法・基準	課題の発表成果、英語講読文献のまとめ、基本動作に見られる生体力学の説明能力を等価で評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教育課題および英文講読の準備には時間がかかると思われる。各表題ごとに２時間以上の学習時間をとること。	
教科書・参考書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）	
オフィス・アワー	①火曜：17時～18時 ②質問はメールでも受け付ける takahashi@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意	力学の基本知識を前提とする生体力学が授業内容となるため、基礎知識について十分予習しておくこと。４	

講義科目名称： 基礎理学療法学演習　　授業コード：

英文科目名称： Practicum of Physical Therapy Science　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
高橋　正明			

授業形態	演習形式：院生による課題発表に基づいて議論を進める。	担当者
授業計画	１回　コースオリエンテーション　（高橋正明） 基礎理学療法学演習に関するオリエンテーション ２回　文献講読Ⅰ　（高橋正明） テキスト講読／論文抄読　院生発表 ３回　研究計画Ⅰ　（高橋正明　江口勝彦　城下貴司） 研究計画・進捗状況　院生発表 ４回　文献講読Ⅱ　（高橋正明） テキスト講読／論文抄読　院生発表 ５回　文献講読Ⅲ　（高橋正明） テキスト講読／論文抄読　院生発表 ６回　文献講読Ⅳ　（高橋正明） テキスト講読／論文抄読　院生発表 ７回　文献講読Ⅴ　（高橋正明） テキスト講読／論文抄読　院生発表 ８回　研究計画Ⅱ　（高橋正明　江口勝彦　城下貴司） 研究計画・進捗状況　院生発表 ９回　文献講読Ⅵ　（高橋正明） テキスト講読／論文抄読　院生発表 １０回　文献講読Ⅶ　（高橋正明） テキスト講読／論文抄読　院生発表 １１回　文献講読Ⅷ　（高橋正明） テキスト講読／論文抄読　院生発表 １２回　文献講読Ⅸ　（高橋正明） テキスト講読／論文抄読　院生発表 １３回　文献講読Ⅹ　（高橋正明） テキスト講読／論文抄読　院生発表 １４回　文献講読?　（高橋正明） テキスト講読／論文抄読　院生発表 １５回　研究計画Ⅲ　（高橋正明　江口勝彦　城下貴司） 研究計画・進捗状況　院生発表	
科目の目的	各院生の研究主題に関連した、運動器のバイオメカニクス，関節運動や基本動作の機能構造、理学療法の対象となる疾患の病態と姿勢・動作等あるいは筋・呼吸・循環・代謝等の生理学に関する内外の先行研究、理学療法の対象となる疾患の病態と筋・呼吸・循環・代謝等の生理等を取り上げ、最新の知見について検証し、研究計画の段階を追って作成する。	
到達目標	１）筋の構造,受動特性,活動筋特性,エネルギー吸収,身体内の筋活動,二関節筋構造,収縮様式,筋協調性などから関連特定項目を設定し，その筋の機能構造について説明できること。 ２）自らの研究計画書を完成させること。	
成績評価方法・基準	演習による研究計画作成のプロセス及び成果により総合的に判定する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	英書の意味を確実にかつ素早くとれるようになるためには とれるようになる	
教科書・参考書	授業の中で紹介する。	
オフィス・アワー	①火曜日：17時～18時 ②質問はメールでも受け付ける takahashi@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意	英語を訳すのではなく、英語の文献を読めるようにする。そのためにはとにかく多く 科学論文を読むことである	

講義科目名称： 基礎理学療法学特別研究　　授業コード：

英文科目名称： Thesis of Physical Therapy Science　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10	選択
担当教員	担当者		
高橋　正明			

授業形態	実験	担当者
授業計画		
科目の目的	基礎理学療法領域の一実験研究をまとめることで学ぶ院生は必要な文献の抽出、研究課題の絞り込み、バイアスの回避の仕方、信頼性・妥当性のチェック、実験計画作成、結果をまとめて文章並びに口述発表での注意点など研究の流れに沿って実験を遂行できるようになること。加えて人に対する倫理配慮をすることができること。	
到達目標		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書・参考書		
オフィス・アワー		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 臨床理学療法学特論　　授業コード：

英文科目名称： Special Lecture of Clinical Physical Therapy　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
中　徹			

授業形態	座学	担当者
授業計画	1回　導入と総論　（中　徹） 臨床理学療法体系 総論 2回　臨床理学療法学特論1　（中　徹） 臨床理学療法学体系と臨床 総論 3回　臨床理学療法学特論2　（中　徹） 臨床理学療法学体系と臨床 各論 4回　臨床発達理学療法学特論1　（中　徹） 発達理学療法学特論 総論および各論 5回　臨床発達理学療法学特論2　（中　徹） 発達理学療法学特論 総論および各論 6回　臨床神経理学療法学特論1　（鈴木 学） 神経治療特論 7回　臨床神経理学療法学特論2　（鈴木 学） 神経治療特論 8回　臨床身体活動学特論1　（木村 朗） 臨床身体活動学特論 総論および各論 9回　臨床身体活動学特論2　（木村 朗） 臨床身体活動学特論 総論および各論 10回　臨床身体活動学特論3　（木村 朗） 臨床身体活動学特論 総論および各論 11回　臨床身体活動学特論4　（中　徹） 臨床身体活動学特論 総論および各論 12回　臨床理学療法教育方法特論1　（鈴木 学） 臨床思考教育特論 13回　臨床理学療法教育方法特論2　（鈴木 学） 臨床思考教育特論 14回　臨床理学療法学潮流1　（中　徹） 臨床理学療法学研究の潮流（評価学を中心に） 15回　臨床理学療法学潮流2　（中　徹） 臨床理学療法学研究の潮流（疫学・治療学を中心に）	
科目の目的	理学療法学研究に資する臨床理学療法学に関する知識の滋養・概念の整理	
到達目標	臨床理学療法に関する修士論文作成の資料の収集と整理	
成績評価方法・基準	レポートによって行う	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	復習を中心にして90分程度自己学習する	
教科書・参考書	特に指定しない	
オフィス・アワー	授業前後	
履修条件・履修上の注意	必要な事項があれば事前に連絡する	

講義科目名称： 臨床理学療法学演習　　授業コード：

英文科目名称： Practicum of Clinical Physical Therapy　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
木村　朗			

授業形態	講義・演習	担当者
授業計画	1　理学療法の臨床研究総論　（木村　朗） 理学療法の臨床疫学研究の定義と分類 2　理学療法の臨床研究各論　（中　徹） 理学療法の臨床研究（発達理学療法学分野１） 3　理学療法の臨床研究各論　（中　徹） 理学療法の臨床研究（発達理学療法学分野２） 4　理学療法の臨床研究各論　（中　徹） 理学療法の臨床研究（発達理学療法学分野３） 5　理学療法の臨床研究各論　（中　徹） 理学療法の臨床研究（発達理学療法課題演習発表） 6　理学療法の臨床研究各論　（鈴木　学） 理学療法の臨床研究（神経系理学療法学分野１） 7　理学療法の臨床研究各論　（鈴木　学） 理学療法の臨床研究（神経系理学療法学分野２） 8　理学療法の臨床研究各論　（鈴木　学） 理学療法の臨床研究（神経系理学療法学課題演習発表） 9　理学療法の臨床研究各論　（木村　朗） 理学療法の臨床研究（成人保健理学療法学分野１）生涯身体活動支援学１ 10　理学療法の臨床研究各論　（木村　朗） 理学療法の臨床研究（成人保健理学療法学分野２）生涯身体活動支援学2 11　理学療法の臨床研究各論　（木村　朗） 理学療法の臨床研究（成人保健理学療法学分野３）生涯身体活動支援学3 12　理学療法の臨床研究各論　（木村　朗） 理学療法の臨床研究（成人保健理学療法学課題演習発表） 13　理学療法の臨床研究各論　（木村　朗） 理学療法の臨床研究（血管機能と臨床身体活動学１）生涯身体活動支援学4　アウトカムとしての血管機能1 14　理学療法の臨床研究各論　（木村　朗） 理学療法の臨床研究（血管機能と臨床身体活動学２）生涯身体活動支援学5　アウトカムとしての血管機能2 15　理学療法の臨床研究各論　（木村　朗） 理学療法の臨床研究（血管機能と臨床身体活動学課題演 習発表）	
科目の目的	臨床疫学的方法に基づく、理学療法技術の保健・医療学的適応の根拠を明らかにするための研究能力を身に付けるための基本的な思考の枠組みを身に付ける。	
到達目標	新たな健康問題に対処するための理学療法技術の開発を担うための、臨床試験の実践例について説明できるようになる。 理学療法診断学の構築に資する国際的な理学療法の動向を理解する。 障害を持つ人の保健・公衆衛生に資する身体機能・活動能力の情報学的可視化能力を身に付ける。	
成績評価方法・基準	レポート50%、口頭試問50%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	原著講読のための準備として毎回2時間程度必要（標準の理学療法知識および英文読解力、統計解析能力を有する場合で見積もり）、英文ジャーナル論文抄読においては4-6時間の準備（状況、内容によって可変）	
教科書・参考書	教科書1.Physical Activity Epidemiology(Rod K. Dishman eta.)Human Kinetics(Amazonにて購入可) 教科書2.生涯身体活動支援ハンドブック（ヘルスインフォマティクス）（木村　朗）［Kindle版］ 参考書	
オフィス・アワー	授業開講期間の火曜日など　18時から18時30分の間	
履修条件・履修上の注意	PCを持参すること	

講義科目名称： 臨床理学療法学特別研究　　授業コード：

英文科目名称： Thesis of Clinical Physical Therapy　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10	選択
担当教員	担当者		
中　徹・木村　朗、　鈴木学（研究補助）・加藤仁志（研究補助）			

授業形態	座学・演習・データ収集実験	担当者
授業計画	1~15　研究計画の立案　（中　徹・木村　朗） 先行文献の通読と計画の検討 16~30　予備実験 予備実験を経て、計画の修正・確認を行なう 31~45　本実験1 実験を開始し、データを得る 46~60　本実験2 データ収集の残りとデータ解析 61~75　修論作成 データ結果を論文の形でまとめる	
科目の目的	自からたてた仮説を科学的手続きによって検証することを目的とする	
到達目標	研究計画にもとづいて得られたサンプルからの臨床データを解析し、過去の到達段階との比較において考察する形で論文にまとめることができる。ただし、学術的な新奇性を問うものではない。	
成績評価方法・基準	選考文献、研究計画、途中経過の発表に加え、修論の発表内容にて評価する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	研究の進度に応じるが、最低でも週当たり3時間の学習は必要で、実験に入ると週当たり5~6時間は学習が必要である	
教科書・参考書	特に指定しないが、テーマ関連の文献や成書の通読は必須である	
オフィス・アワー	各指導回の前後	
履修条件・履修上の注意	確認したロードマップに沿って研究が進められるよう、指導教員とコミュニケーションをとり、努力すること	

講義科目名称： 高齢者理学療法学特論　　授業コード：

英文科目名称： Advanced Physical Therapy for the Elderly　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
浅田　春美			

授業形態	講義（11）および演習（4）	担当者
授業計画	1　ガイダンス／総論　（浅田・加藤） 課題提示／日本における高齢者の実態 2　総論　（浅田・加藤） 理学療法の対象となる高齢者の区分・高齢者の運動機能 3　各論／高齢者の評価　（浅田・加藤） 高齢者の運動機能・ADL・QOL・その他 4　各論／高齢者の運動機能評価の実際　（浅田・加藤） 高齢者の運動機能評価7種について、その測定方法を実践する＜課題＞ 5　各論／各制度における理学療法の役割１　（浅田・加藤） 介護保険制度の中での理学療法（士）の役割・課題＜通所・入所・訪問＞ 6　各論／各制度における理学療法の役割１　（浅田・加藤） 介護保険制度の中での理学療法（士）の役割・課題＜通所・入所・訪問＞ 7　各論／各制度における理学療法の役割２　（浅田・加藤） 介護予防・総合事業における理学療法（士）の役割・課題 8　各論／各制度における理学療法の役割２　（浅田・加藤） 介護予防・総合事業における理学療法（士）の役割・課題 9　各論／高齢者に対する運動療法・その他　（浅田・加藤） 学生による各テーマの講義実施（課題報告） 10　各論／高齢者に対する様々な介入方法　（浅田・加藤） 学生による各テーマの講義実施（課題報告） 11　フィールドワーク＜昼間＞　（浅田・加藤） 介護予防事業等への介入（予定）：年度によっては実施しないこともある。 12　フィールドワーク＜昼間＞　（浅田・加藤） 介護予防事業等への介入（予定） 13　フィールドワーク＜昼間＞　（浅田・加藤） 介護予防事業等への介入（予定） 14　各自治体の高齢者施策における理学療法（士）の役割および課題　（浅田・加藤） 各学生が調べた内容についてプレゼンテーションを実施・討論　（課題報告） 15　各自治体の高齢者施策における理学療法（士）の役割および課題　（浅田・加藤） 各学生が調べた内容についてプレゼンテーションを実施・討論　（課題報告）	
科目の目的	身体と運動機能の加齢変化，それらによる生活の変容について概説するとともに、高齢者の生活自立度，生活の質などの評価方法，研究方法について教授する。高齢者に関する各種制度における理学療法（士）の役割について学ぶことを目的に、それぞれの学生が身近な自治体における介護予防	

	事業を調査し報告・討論することで、理学療法（士）の役割や課題について理解を深める。
到達目標	１）日本における高齢者の実態を理解し、個々の高齢者の身体・運動機能の加齢変化とそれによる生活の変容について説明できる. ２）高齢者の運動機能評価の具体的方法について説明し、演習において実践できる. ３）介護保険制度や介護予防事業での理学療法（士）の役割、理学療法介入について説明できる. ４）地域包括支援制度に向けた新たな取り組みにおける理学療法（士）の役割について問題意識を持つ.
成績評価方法・基準	課題（学生による講義／各自治体の介護予防事業での理学療法士の役割）への取り組みと報告：60% 演習（高齢者の身体機能評価／フィールドワーク）への参加とそのまとめの提出：40%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書を中心とした予習・復習 課題については、まとめるだけの作業ではなく「分かりやすく伝えるための資料作成」を心がける。 実際のインタビューでは、電話・面談に関わらず具体的な内容を準備し臨むこと。時間を要する課題のため計画的に時間配分をして準備を進めること。　＜30時間＞
教科書・参考書	＜教科書＞　市橋則明編：運動療法学各論高齢者の機能障害に対する運動療法，文光堂，2010 ＜参考書＞　講義の中で随時、紹介する
オフィス・アワー	該当する講義前
履修条件・履修上の注意	理学療法の基礎知識を有していること．フィールドワークは、昼間に実施しますので日程調整が可能な方.

講義科目名称： 地域理学療法学特論　　授業コード：

英文科目名称： Advanced Community Based Physical Therapy　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
目黒　力			

授業形態	座学	担当者
授業計画	1回　地域包括ケアシステム　（中） 2回　小児の生活と制度　（中） 3回　小児の地域理学療法　（中） 4回　小児の生活支援1　（中） 5回　小児の生活支援2　（中） 6回　小児の生活支援3　（中） 7回　小児の生活支援4　（中） 8回　社会制度　（目黒） 9回　環境Ⅰ（目黒） 10回　環境Ⅱ　（目黒） 11回　地域特性　（目黒） 12回　外出特性分析　（目黒） 13回　交通　（目黒） 14回　地域特性　（目黒） 15回　計画　（目黒）	
科目の目的	高齢者や身体障害者（児）が地域での生活を維持・改善するために必要な住環境整備，交通整備，街 づくりなどを中心に教授する。また，地域保健を実践するための関連職種とその役割，そのチームに おける理学療法士の役割，地域保健を実践するために必要な社会制度などについて教授する。また， これらを実現することの礎となる事柄，すなわち，高齢者や身体障害者の身体特性，特に視力や認知 機能，高齢者および障害者の日常生活活動・住環境・外出時の移動・交通利用の実態と，それらを土 木計画学の手法を用いて研究デザインする方法を教授する。	
到達目標	１）高齢者・身体障害者（児）の生活に必要な住環境・交通・街についてわかる。 ２）地域保健における理学療法士の役割がわかり，実践のための自己の課題が明確になる。	
成績評価方法・基準	レポートによる	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前後90分	
教科書・参考書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）	
オフィス・アワー	授業の前後	
履修条件・履修上の注意	表計算ソフトなどを使用するので十分活用できることが望ましい	

講義科目名称： 病態検査解析学　　授業コード：

英文科目名称： Analytical Clinical Pathology　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
藤田　清貴			

授業形態	講義	担当者
授業計画	1　イントロダクション，免疫化学検査データ解析（1） 免疫化学検査データからの病態解析（1）（藤田） 2　免疫化学検査データ解析（2） 免疫化学検査データからの病態解析（2）（藤田） 3　血液検査成績からの解析法(1) 症例１を提示し、解析するための方法論を教授する。その後、討論を通して、疾患を理解する。（小河原） 4　血液検査成績からの解析法(1) 症例２について、同様に実施する。（小河原） 5　生体分子情報検査データ解析（1） 生体分子情報検査データからの病態解析（1）（亀子） 6　生体分子情報検査データ解析（2） 生体分子情報検査データからの病態解析（2）（亀子） 7　遺伝子情報検査データ解析（1） 遺伝子情報検査データからの病態解析（1）（長田） 8　遺伝子情報検査データ解析（2） 遺伝子情報検査データからの病態解析（2）（長田） 9　培養細胞による病態解析（1） 培養細胞による病態解析と検証法（1）（高橋） 10　培養細胞による病態解析（2） 培養細胞による病態解析と検証法（2）（高橋） 11　感染症の病因・病態解析（1） 検査データからの感染症の病因・病態解析（1）（白土） 12　感染症の病因・病態解析（2） 検査データからの感染症の病因・病態解析（2）（白土） 13　循環器系疾患の病態解析 検査データからの循環器系疾患の病態解析（古田島） 14　内分泌疾患の病態解析 検査データからの内分泌疾患の病態解析（古田島） 15　検査データ統計解析 基礎および臨床医学研究のための統計解析（古田島）	
科目の目的	臨床検査データから各種疾患の病態を解析するための技術・方法論とその意義について学ぶ（オムニバス方式）。	
到達目標	１．各種疾患における病態と臨床検査データとの関連性について説明できる。 ２．臨床検査の異常データから病態を推測し，さらに進めるべき検査および病態解析法について説明できる。	
成績評価方法・基準	レポート・討論内容・出席状況から総合的に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について１～２時間予習・復習を行い理解しておくこと。	
教科書・参考書	特になし。必要に応じて資料を配布する。	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。	
履修条件・履修上の注意	講義中は携帯電話の電源を切ること	

講義科目名称： 病態免疫化学検査学特論　　授業コード：

英文科目名称： Advanced Pathological Immunology　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期 / 後期	1 / 2 学年	2	選択
担当教員	担当者		
藤田　清貴			

授業形態	講義	担当者
授業計画	1　イントロダクション，血清蛋白異常症（1） 血清蛋白異常症に関する基礎知識 2　血清蛋白異常症（2） 血清蛋白異常症の分析法 3　蛋白質の分離・精製法（1） 蛋白質の分離・精製法の種類と各理論 4　蛋白質の分離・精製法（2） 蛋白質の分離・精製の進め方 5　抗体の分離・精製法（1） 血清中からのIgG免疫グロブリンの精製法 6　抗体の分離・精製法（2） 血清中からのIgA, IgM, IgD, IgE免疫グロブリンの精製法 7　異常蛋白の分離・精製法（1） 血清中からの異常蛋白の分離・精製の進め方 8　異常蛋白の分離・精製法（2） 尿中からの異常蛋白の分離・精製の進め方 9　各種電気泳動分析法（1） 免疫電気泳動法・免疫固定電気泳動法の理論と判読法 10　各種電気泳動分析法（2） SDS-PAGE・Western blotting法の理論と判読法 11　感異常蛋白の分子構造解析法（1） 電気泳動分析による異常蛋白の分子構造解析例（1） 12　異常蛋白の分子構造解析法（2） 電気泳動分析による異常蛋白の分子構造解析例（2） 13　臨床検査における異常反応 臨床検査における異常反応のメカニズムとその対処法 14　討論会（1） 検査値に影響を及ぼす異常蛋白と解析法（1） 15　討論会（2） 検査値に影響を及ぼす異常蛋白と解析法（2）	
科目の目的	生体の病変は血清蛋白に反映され，また血清蛋白の量的，質的変化は生体に変調を来すことから，血清蛋白異常を見逃すことなくとらえ，適切に検索をすすめることは患者の病態を正しく把握する上できわめて重要である。本特論では，免疫化学的手法を用いた抗原・抗体分離精製法，異常蛋白の分子構造解析などの分析技術についての理論や血清蛋白異常症の検査法および解析手順について教授する。また，異常免疫グロブリンが体液性成分と結合，あるいは相互作用によって測定系に影響を及ぼす異常蛋白例について対処できる能力を育成する。	
到達目標	１．各種分離・精製法および電気泳動分析法の知識と技術を理解し異常蛋白の解析ができる。 ２．異常蛋白の知識と解析法を習得し病態を反映しない異常値に対処できる。	
成績評価方法・基準	レポート・討論内容・出席状況から総合的に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について１～２時間予習・復習を行い理解しておくこと。	
教科書・参考書	教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。 参考書：藤田清貴：臨床検査で遭遇する異常蛋白質―基礎から発見・解析法まで（医歯薬出版）	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する（fujita@paz.ac.jp）。	
履修条件・履修上の注意	講義中は携帯電話の電源を切ること	

講義科目名称： 病態免疫化学検査学演習　　授業コード：

英文科目名称： Practice in Pathological Immunology　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期 / 前期	1 / 2 学年	2 / 4	選択
担当教員	担当者		
藤田　清貴			

授業形態	演習	担当者
授業計画	1，2　イントロダクション，症例検討会（1） 臨床検査データの謎解き（1） 3，4　症例検討会（2） 臨床検査データの謎解き（2） 5，6　症例検討会（3） 臨床検査データの謎解き（3） 7，8　症例検討会（4） 臨床検査データの謎解き（4） 9，10　症例検討会（5） 臨床検査データの謎解き（5） 11，12　症例検討会（6） 臨床検査データの謎解き（6） 13，14　症例検討会（7） 臨床検査データの謎解き（7） 15，16　関連研究論文の講読および発表討論会（1） 関連研究論文の原著講読（1）　＊関連研究論文はClinical Chemistry, Clinica Chimica Acta, Blood, The New England Journal of Medicine,Annals of Clinical Laboratory Scienceなどの英文を基本とする。 17，18　関連研究論文の講読および発表討論会（2） 関連研究論文の原著講読および内容についての発表討論会（2） 19，20　関連研究論文の講読および発表討論会（3） 関連研究論文の原著講読および内容についての発表討論会（3） 21，22　関連研究論文の講読および発表討論会（4） 関連研究論文の原著講読および内容についての発表討論会（4） 23，24　関連研究論文の講読および発表討論会（5） 関連研究論文の原著講読および内容についての発表討論会（5） 25，26　関連研究論文の講読および発表討論会（6） 関連研究論文の原著講読および内容についての発表討論会（6） 27，28　関連研究論文の講読および発表討論会（7） 関連研究論文の原著講読および内容についての発表討論会（7） 29，30　関連研究論文の講読および発表討論会（8） 関連研究論文の原著講読および内容についての発表討論会（8）	
科目の目的	血清蛋白異常症に関する検査法の基礎的技術や新しい検査技術とその意義を教授し，病因・病態解析ができる応用能力を育成するとともに，臨床検査の実践の場で異常値や異常反応に対応できる基礎知識と応用技術を習得させる。また、研究内容に関連する文献講読と指導教員を交えた討論より研究を進めるための基礎的能力を養う。	
到達目標	1.異常蛋白血症の病態と検査値との関連性を理解し病態解析ができる。 2.関連研究論文を読み，討論を通して実践的な研究を進めることができる。	
成績評価方法・基準	レポート・討論内容・出席状況から総合的に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について１～２時間予習・復習を行い理解しておくこと。	
教科書・参考書	教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。 参考書：藤田清貴：臨床検査で遭遇する異常蛋白質―基礎から発見・解析法まで（医歯薬出版）	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する（fujita@paz.ac.jp）。	
履修条件・履修上の注意	演習中は携帯電話の電源を切ること	

講義科目名称： 遺伝子情報検査学特論　　授業コード：

英文科目名称： Advanced Genom Informatics　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
長田　誠			

授業形態	講義，演習	担当者
授業計画	1　医学的基礎知識① 生化学，解剖学，血液学，臨床病態学 2　医学的基礎知識② 分子生物学，遺伝子工学，人類遺伝学 3　遺伝子関連検査に必要な知識① ラボラトリーセーフティ，機器の取り扱い，試薬の調製 4　遺伝子関連検査に必要な知識② 検体の取り扱い，精度管理，法律・倫理 5　臨床遺伝学的検査 疾患関連遺伝子の同定，検査結果の解釈，検査の利用 6　遺伝子関連検査の技術① 遺伝子関連検査の分類，動物，植物の遺伝子解析 7　遺伝子関連検査の技術② 核酸増幅，検出技術 8　遺伝学的検査の実践① 遺伝医療，家系図の書き方，実践 9　遺伝学的検査の実践② ウェブ上で得られる遺伝子に関連した情報，実践 10　遺伝子関連検査結果の評価① 感染症，血液疾患 11　遺伝子関連検査結果の評価② 固形腫瘍，主な単一遺伝子疾患 12　遺伝子関連検査結果の評価③ 生活習慣病，個人識別，再生医療，ファーマコゲノミクス 13　染色体検査の技術と実践 構造と機能，分類と核型記載法，染色体地図，細胞培養法，標本作製，染色法，核型分析，FISH法，マイクロアレイ染色体検査 14　染色体検査結果の評価 染色体異常の種類，腫瘍と染色体異常，環境変異原と染色体異常，実践 15　インターネットを用いた情報収集 遺伝子解析技術を構築するための情報収集，実践	
科目の目的	遺伝子の構造と遺伝情報の伝達や発現調整のメカニズムを知り，分子生物学的解析（遺伝子分析）技術を用いて臨床診断する手法を理解する．最新の遺伝子関連検査技術を応用した研究の構築や結果の解釈などが出来る能力を育成する．	
到達目標	・遺伝子の構造と発現調節メカニズムを理解し説明できる． ・最新の遺伝子関連検査について理解し説明できる． ・研究に用いるための遺伝子解析技術を構築できる． ・研究に用いるための遺伝子関連検査を構築できる． ・遺伝情報の倫理的取り扱いを理解し説明できる．	
成績評価方法・基準	レポート40%，討論内容40%，受講態度20%により成績を評価する．	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について予習復習を行い，理解を深めること．	
教科書・参考書	教科書：特に指定しない．便宜資料を配付する． 参考書1：「ワトソン遺伝子の分子生物学」　東京電機大学出版局 参考書2：「改訂第3版　分子生物学イラストレイテッド」　羊土社	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける．個別の相談は事前連絡にて対応する．	
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称： 遺伝子情報検査学演習　　授業コード：

英文科目名称： Practice in Genom Informatics　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期 / 前期	1 / 2 学年	2 / 4	選択
担当教員	担当者		
長田　誠			

授業形態	講義，演習		担当者
授業計画	1	DNAの構造と機能 先天性角化不全症	
	2	遺伝学的多様性と変異 色素性乾皮症，Charcot-Marie-Tooth病	
	3	遺伝形式 常染色体劣性遺伝による先天性難聴，Rett症候群，MELAS	
	4	1－3の関連論文，遺伝情報検索 関連論文の講読とインターネットによる遺伝情報検索	
	5	ヒトゲノム Huntington病，嚢胞性線維症	
	6	多因子遺伝 肥厚性幽門狭窄症，Alzheimer病，糖尿病	
	7	細胞分裂と染色体 Down症候群，Turner症候群，22q11.2欠失症候群	
	8	5－7の関連論文，遺伝情報検索 関連論文の講読とインターネットによる遺伝情報検索	
	9	集団遺伝学 鎌状赤血球症，Tay-Sachs病	
	10	がん遺伝学 網膜芽細胞腫，遺伝性大腸がん	
	11	染色体転座 Wolf-Hirschhorn症候群，4番染色体欠失	
	12	9－11の関連論文，遺伝情報検索 関連論文の講読とインターネットによる遺伝情報検索	
	13	分子遺伝学的診断 神経線維腫症	
	14	新生児スクリーニング フェニルケトン尿症	
	15	発生遺伝学 CHARGE症候群	
	16	13－15の関連論文，遺伝情報検索 関連論文の講読とインターネットによる遺伝情報検索	
	17	保因者スクリーニング Tay-Sachs病	
	18	遺伝学的リスク評価 DTC検査	
	19	17－18の関連論文，遺伝情報検索 関連論文の講読とインターネットによる遺伝情報検索	
	20	がん発生リスクに対する遺伝学的検査 遺伝性乳がん・卵巣がん症候群	
	21	薬理遺伝学，遺伝性疾患の治療 ファーマコゲノミクス	
	22	20ー21の関連論文，遺伝情報検索 関連論文の講読とインターネットによる遺伝情報検索	
	23	関連研究論文の講読① 関連研究論文の原著講読①	
	24	関連研究論文の発表検討会① 関連研究論文の講読内容について発表討論①	
	25	関連研究論文の講読② 関連研究論文の原著講読②	
	26	関連研究論文の発表検討会② 関連研究論文の講読内容について発表討論②	
	27	関連研究論文の講読③ 関連研究論文の原著講読③	
	28	関連研究論文の発表検討会③ 関連研究論文の講読内容について発表討論③	
	29	関連研究論文の講読④ 関連研究論文の原著講読④	

	30　　関連研究論文の発表検討会④ 　　関連研究論文の講読内容について発表討論④	
科目の目的	遺伝医学の最新情報を駆使するためには，遺伝医学，臨床遺伝学の知識を持ち，情報を適切に処理する能力が必要である．前半では，それぞれの症例を含めながら臨床遺伝学を学び遺伝情報の知識を蓄積する．後半は，関連する研究論文を講読し，簡潔にまとめて的確に発表する能力を養う．	
到達目標	・DNA構造と機能，遺伝の多様性と遺伝形式を理解し説明できる． ・細胞分裂と染色体，遺伝の法則を理解し説明できる． ・それぞれの疾患を含め，臨床遺伝医学を理解し説明できる． ・研究に必要な論文講読と，論点を的確に整理し発信する能力を身につける．	
成績評価方法・基準	討論内容60%，レポート20%，受講態度20%により成績を評価する．	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について予習復習を行い，理解を深めること．	
教科書・参考書	教科書：「コルフ臨床遺伝医学　原書4版」　丸善出版 参考書1：「一目でわかる臨床遺伝学　第2版」　メディカル・サイエンス・インターナショナル 参考書2：「バイオリソース＆データベース活用術」　秀潤社	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける．個別の相談は事前連絡にて対応する．	
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称： 病態血液検査学特論　　授業コード：

英文科目名称： Advanced Pathologic Laboratory Hematology　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
小河原　はつ江			

授業形態	講義形式	担当者
授業計画	第1回　貧血と血液疾患（1） 貧血総論、骨髄不全、骨髄浸潤による貧血 第2回　貧血と血液疾患（2） 鉄代謝（欠乏と過剰）、巨赤芽球性貧血、慢性疾患に伴う続発性貧血 第3回　貧血と血液疾患（3） サラセミア、鎌状赤血球症、赤血球膜または赤血球代謝異常による溶血性貧血 第4回　貧血と血液疾患（4） 後天性溶血性貧血、赤血球増加症 第5回　止血と血栓症（1） 止血総論、血小板異常症 第6回　止血と血栓症（2） 遺伝性凝固異常症 第7回　止血と血栓症（3） 後天性血液凝固異常症 第8回　止血と血栓症（4） 血栓性疾患 第9回　白血球系疾患（1） 白血球の機能と非腫瘍性白血球系疾患 第10回　白血球系疾患（2） 造血器腫瘍（序説） 第11回　白血球系疾患（3） 骨髄増殖性疾患、骨髄異形性症候群 第12回　白血球系疾患（4） 急性白血病 第13回　白血球系疾患（5） 非ホジキンリンパ腫および慢性リンパ性白血病 第14回　白血球系疾患（6） 多発性骨髄腫および類縁疾患 第15回　輸血医学 輸血と造血幹細胞移植について	
科目の目的	血液には造血幹細胞より分化・成熟した赤血球、白血球、血小板の3系統の細胞が存在し、凝固・線溶因子及びその制御因子を含む血漿成分とともに流動性を保ちつつ全身を循環している。病態血液検査学特論では各種血液疾患の病態を理解し、検査データからの解析能力を向上させることを目的とする。	
到達目標	血液疾患の病態を理解し、付加価値をもった情報提供ができる。	
成績評価方法・基準	レポートにて評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書に沿って進行するので、事前に講義日の内容について目を通しておくことを勧める。	
教科書・参考書	教科書：HF Bunn & JC Aster著　ハーバード大学テキスト血液疾患の病態生理　奈良信雄訳　メディカル・サイエンス・インターナショナル,2012 参考書：WHO分類第4版による白血病・リンパ系腫瘍の病態学　押味和夫監修、木崎昌弘・田丸淳一編著、中外医学社、2009	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の質問は事前の連絡により随時対応する。（ogawara@paz.ac.jp）	
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称： 病態血液検査学演習　　授業コード：

英文科目名称： Practice in Laboratory Hematology　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期 / 前期	1 / 2 学年	2 / 4	選択
担当教員	担当者		
小河原　はつ江			

授業形態	講義および演習	担当者
授業計画	第1回　形態学的分析法 オリエンテーションおよび末梢血液像の見方、考え方について説明する。 第2回　形態学的分析法　末梢血液像（1） PCを使用した末梢血液像判定 第3回　形態学的分析法　末梢血液像（2） 顕微鏡下で症例について血液像を読み、所見と今後必要な検査について提案する。 これをレポートにして提出。 第4回　形態学的分析法　末梢血液像（3） 顕微鏡下で症例について血液像を読み、所見と今後必要な検査について提案する。 これをレポートにして提出。 第5回　形態学的分析法　末梢血液像（4） 顕微鏡下で症例について血液像を読み、所見と今後必要な検査について提案する。 これをレポートにして提出。 第6回　形態学的分析法　骨髄像（1） 骨髄像の読み方、レポートの書き方について講義 第7回　形態学的分析法　骨髄像（2） 症例１．骨髄像判定 第8回　形態学的分析法　骨髄像（3） 症例２．骨髄像判定 第9回　形態学的分析法　骨髄像（4） 症例３．骨髄像判定 第10回　形態学的分析法　骨髄像（5） 症例４．骨髄像判定 第11回　形態学的分析法　骨髄像（6） 症例５．骨髄像判定 第12回　形態学的分析法　骨髄像（7） 判定した５症例の骨髄像について判定結果をとりまとめ、口頭で発表する。 第13回　フローサイトメトリー法に関する講義 フローサイトメトリーの原理 第14回　フローサイトメトリー法に関する講義 リンパ球サブセット測定について 第15回　フローサイトメトリー法に関する講義 Th1/Th2比測定法について 第16回　フローサイトメトリー法に関する講義 制御性T細胞測定法について 第17回　フローサイトメトリー法に関する講義 好中球アポトーシス測定について 第18回　フローサイトメトリー法に関する講義 末梢血造血幹細胞の同定について 第19回　フローサイトメトリー法に関する演習 フローサイトメーターの操作と保守・管理 第20回　フローサイトメトリー法に関する演習 CD4/CD8比測定法 第21回　フローサイトメトリー法に関する演習 Th1/Th2比測定法 第22回　フローサイトメトリー法に関する演習 制御性T細胞測定法 第23回　フローサイトメトリー法に関する演習 好中球アポトーシス測定法 第24回　フローサイトメトリー法に関する演習 末梢血造血幹細胞の同定法 第25回　論文講読１ 図書館にある英文雑誌Blood、他より研究に関連する原著論文を検索し、内容をまとめる。	

	第26回　論文講読２ 第25回でまとめた原著論文について発表・討論 第27回　論文講読３ PubMedなどでさらに関連論文を検索し、内容をまとめる。 第28回　論文講読４ 第27回でまとめた原著論文について発表・討論 第29回　論文講読５ PubMedなどで関連論文を検索し、内容をまとめる。 第30回　論文講読6 第29回でまとめた原著論文について発表・討論	
科目の目的	最新の血液検査学における分析技術、研究方法を学ぶ。また、血液像および骨髄像を読むことができ、CBCデータや各種検査結果も含めて、的確な情報を提供できる知識・技術を学ぶ。	
到達目標	１）血液像・骨髄像の報告ができる。　２）フローサイトメトリー法による細胞解析技術をマスターする。	
成績評価方法・基準	レポートおよび口頭発表内容で評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	演習の場合は事前に内容を把握し、手順を考えておくことを勧める。30分～60分程度。	
教科書・参考書	指定せず。 適宜紹介する。	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の質問は事前の連絡により随時対応する（ogawara@paz.ac.jp).	
履修条件・履修上の注意	白衣および上履きを準備してほしい。その他は特になし。	

講義科目名称： 生体分子情報検査学特論　　授業コード：

英文科目名称： Advanced Biological Molecular Infomatics　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期 / 後期	1 / 2 学年	2	選択
担当教員	担当者		
亀子　光明			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回　基準値・臨床判断値 1 基準値の分布と基準範囲の定義について解説する. 第2回　基準値・臨床判断値 2 基準値の変動要因（技術的変動要因・生理的変動要因）について解説する. 第3回　基準値・臨床判断値 3 基準値範囲の設定（基準個体の抽出方法，統計処理法，設定上の留意点）について解説する. 第4回　各種生体成分の変動 1 肝機能検査における測定項目の変動解析について解説する. 第5回　各種生体成分の変動 2 腎機能検査における測定項目の変動解析について解説する. 第6回　各種生体成分の変動 3 内分泌機能検査における測定項目の変動解析について解説する. 第7回　各種生体成分の変動 4 循環器機能検査における測定項目の変動解析について解説する. 第8回　各種生体成分の変動 5 骨代謝機能検査における測定項目の変動解析について解説する. 第9回　各代謝の変動解析 1 糖質，脂質，タンパクアミノ酸の代謝に影響を与える因子について解説する. 第10回　各代謝の変動解析 2 ビタミン，カルシウム・リン代謝に影響を与える因子について解説する. 第11回　RTP（Rapid turnover protein）1 栄養アセスメント蛋白として，レチノール結合タンパク（RBP4）の生理的変動について解説する. 第12回　RTP 2 栄養アセスメント蛋白として，トランスサイレチン（TTR）の生理的変動について解説する. 第13回　微量金属 亜鉛の生理的変動について解説する. 第14回　尿中低分子蛋白 1 尿中に排泄される低分子蛋白であるα1 およびβ２マイクロブロブリンの生理的変動について解説する. 第15回　尿中低分子蛋白 2 尿中に排泄される低分子蛋白であるRBP，TTR の生理的変動について解説する.	
科目の目的	生体成分に含まれる微量タンパク，尿中低分子タンパクの生理学的変動を解析し，健康状態からの逸脱が生じた時にこれらの成分がどの様に変化するかを解析し，異常をより早く把握するために有用となる生体成分やその測定法を探求する.	
到達目標	１．生体成分の生理的変動（個体内・個体間）の解析ができる. ２．疾患に関連する有用な微量成分が説明できる.	
成績評価方法・基準	レポート，課題テーマから総合的に評価する.	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	特に設けない.	
教科書・参考書	特になし．必要に応じ資料を配布する.	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける．個別の相談は事前連絡によって対応する（kameko@paz.ac.jp）	
履修条件・履修上の注意	研究を開始する前に受講することが望ましい.	

講義科目名称： 生体分子情報検査学演習　　授業コード：

英文科目名称： Practice in Biological Molecular Informatics　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期 / 前期	1 / 2 学年	2 / 4	選択
担当教員	担当者		
亀子　光明			

授業形態	講義，演習	担当者
授業計画	第1回　オリエンテーション 低分子タンパクの解説，検出方法，分離精製法，測定系，解析法，基準範囲の設定法 第2回　低分子タンパク１ ベンス・ジョーンズ蛋白（BJP）の性状，検出方法，分離精製法 第3回　低分子タンパク２ α1-ミクログロブリン（α1-m）とβ2-ミクログロブリン（β2-m）の性状，検出・分離精製法 第4回　低分子タンパク３ レチノール結合蛋白（RBP）の性状，検出方法，分離精製法 第5回　低分子タンパク４ トランスサイレチン（TTR）の性状，検出方法，分離精製法 第6回　低分子タンパクの生理的変動解析 各タンパクの個体間・個体内変動の解析方法 第7回　測定方法の解説１ 比濁法，比朧法の測定原理 第8回　測定方法の解説2 EIA，ELISAの測定原理 第9回　測定方法の解説3 発光物質を用いた測定法原理 第10回　測定法の演習１ 比濁法による測定 第11回　測定法の演習2 ELISAによる測定 第12回　測定法の演習3 発光物質を用いた測定 第13回　低分子タンパクの検出法と同定 各種電気泳動法を用いた検出法と同定法 第14回　検出法と同定の演習 SDS-PAGEやWestern blottingの実践 第15回　測定法・検出法・同定法のまとめ 各測定方法，検出法，同定法の利点，欠点 第16回　関連研究論文 課題１ Clinical Chemistry，Clinica Chimica Acta 等にある生体分子情報検査に関連する論文の講読 第17回　課題１の発表・討論 課題１の内容発表と討論 第18回　関連研究論文 課題２ 課題２論文の講読 第19回　課題２の発表・討論 課題２の内容発表と討論 第20回　関連研究論文 課題３ 課題３論文の講読 第21回　課題３の発表・討論 課題３の内容発表と討論 第22回　関連研究論文 課題４ 課題４論文の講読 第23回　課題４の発表・討論 課題４の内容発表と討論 第24回　関連研究論文 課題５ 課題５論文の講読 第25回　課題５の発表・討論 課題５内容発表と討論 第26回　関連研究論文 課題６ 課題６論文の講読	

	第27回　課題６の発表・討論 課題６の内容発表と討論 第28回　研究論文作成１ 実験で得られた結果から論文作成 第29回　研究論文作成２ 論文作成の中間報告と問題点の討論 第30回　研究論文まとめ まとめ	
科目の目的	生体成分の中で，疾患に関連する血漿蛋白，酵素，微量金属，尿中に排出される低分子蛋白質の量的異常やそれらの生理学的変動を明らかにするとともに，疾患との関連性を分析する．そのため，解析に必要な統計処理法や対象項目の測定方法についても学ぶ．	
到達目標	1.各生体成分を分析，測定し,得られたデータを使って解析を行い，その評価が出来る． 2.目的成分の分離精製法と検出・同定が出来る． 3.測定方法の技術を身につける．	
成績評価方法・基準	レポート，課題テーマから総合的に評価する．	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	特に設けない．実験の時間配分を設定しておく．	
教科書・参考書	特になし．必要に応じ資料を配布する．	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける．個別の相談は事前連絡によって対応する（kameko@paz.ac.jp）	
履修条件・履修上の注意	実験ノートを必ず作成し，適宜提出する．	

講義科目名称： 生殖補助医療技術学特論　　授業コード：

英文科目名称： Advanced of Assisted Reproductive Technology　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2	選択
担当教員	担当者		
荒木　康久			

授業形態	講義	担当者
授業計画	1　体外受精 体外受精の実際の様子を習得できるよう各論的に各部の内容を講義する。 2　顕微授精（ICSI） 特殊な受精法（卵細胞内精子注入法）を含めた講義をする。 3　受精に関する生理学（１） 精祖細胞から成熟した精子までの分化過程を学ぶ。 4　受精に関する生理学（2） 卵原細胞から成熟した卵母細胞までの分化過程を学ぶ。 5　内分泌（１） 卵巣機能を理解する各論的講義で学ぶ。 6　内分泌（2） 精巣機能を理解する各論的講義で学ぶ。 7-8　胚発生 受精の仕組みと胚発生（分化）を各論的に学ぶ。 9-11　凍結技術の応用 概論で学んだ基礎知識をベースに凍結分野で臨床応用されている各論を学ぶ。 12-13　凍結技術の応用 未受精卵、余剰卵、卵巣組織におよぶ凍結技術が臨床応用されている各論を学ぶ。 14　染色体 臨床に役立てられている染色体の現状を学ぶ。 15　総合討論 特論で学んだ中から各自が選択した課題をpresentationして多角的に討論する。	
科目の目的	生殖医療として行われている技術の理論を学ぶとともに、それぞれの技術を中心とした臨床応用までを理解できることを目標にする。	
到達目標	生殖医療として行われている技術の現況をとおして臨床に何が役立てられているか理解できることを目標にする。	
成績評価方法・基準	講義中心に学生参加の授業を行う予定である。どこまで自己アピールしながら自ら学ぼうとしているのかその点を評価の中心に置きたいと考えている。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	常に与えられた次回講義の内容を理解すべき予習を行うこと。下記の参考書を座右に置きながら学ぶこと。	
教科書・参考書	各自購入する必要はない（図書館にある） 卵子学（総編集　森　崇英）（京都大学出版） 精子学（編集　毛利・森沢・星）（東京大学出版）	
オフィス・アワー	講義の前後、あるいは月、水、木の終日まで何時でも可能です。	
履修条件・履修上の注意	特に無し	

講義科目名称： 生殖補助医療技術学演習　　授業コード：

英文科目名称： Practice of Assisted Reproductive Technology　　対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期 / 前期	1 / 2 学年	2 / 4	選択
担当教員	担当者		
荒木　康久			

授業形態	講義と主として演習（実習）	担当者
授業計画	1-2　配偶子の処理 精子の処理、形態検査、特殊染色 3-4　受精の仕組み マウス卵を用いた体外受精の実際を行い、ヒトの体外受精を模擬的に行う 5-6　受精卵の評価 受精後の胚発生を材料に発生・形態学を学ぶ。顕微鏡を用いた演習。 7-8　生殖細胞の培養 未成熟精細胞の培養、体外培養技術の習得 9-10　顕微授精 マウス卵子を用いた顕微授精の実際を演習する。 11-12　各自のテーマを選択 前回までの演習から各自の興味あるテーマを材料として演習を行う。 13-14　各自のテーマを選択 11-12に続いて各自のテーマを仕上げる。演習前半のまとめと討論。 15-17　精子回収実験 良好精子回収の原理と回収精子の評価を演習する。精子先体反応の検出法（蛍光顕微鏡操作）を演習する。 18-21　卵子染色体検査法の演習 中期卵子の染色体構造を検査する手技を演習する。 22-28　顕微授精技術を応用したゲルカプセル内に細胞注入技術の習得およびこれを用いた研究課題 前半で修得した技術と後半で修得した技術を組み合わせて総合的なテーマを各自で作成し実践する。 前半で修得した技術と後半で修得した技術を総合的にテーマを作成し実践する。 29-30　Reportを作成 実験で得られた成績の評価を論文に作成（論文作成法を学ぶ）	
科目の目的	概論、特論で得た知識を集約し各自の興味あるテーマが見出されることを目的とする。	
到達目標	各自の興味あるテーマを選択し研究的考察ができる演習を目指す。	
成績評価方法・基準	各自のテーマの研究内容（あるいは調査した）のPresentationを通して全体の研究心を評価したい。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各自が問題意識をもって講義の前後にDiscussionできるような準備。	
教科書・参考書	卵子学 精子学 （各自が購入する必要はない）	
オフィス・アワー	講義の前後、もしくは月、水、木常時可能です。	
履修条件・履修上の注意	特に無し、大学院生ゆえ各自の積極的な姿勢を求めます。	

講義科目名称： 病因･病態検査学特別研究　　授業コード：

英文科目名称： Special Research in aetiological & Pathological … 対象カリキュラム： 25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10	選択
担当教員	担当者		
藤田清貴・小河原はつ江・荒木康久・亀子光明			

授業形態	【藤田】演習，実験 【小河原】実験・実習 【荒木】座学・演習・データ解析の在り方、論文作成 【亀子】実験・実習・講義	担当者
授業計画	４月～12月 ① 設定したた研究テーマについて大学の研究倫理審査委員会の承認を得る。 ② 研究計画に沿って自主的に実験・研究を遂行する。 ③ 適宜，中間報告会を実施しながらディスカッションを行い，データ解析の仕方や考え方を学ぶ。 ④ 図表作成の仕方，論文の書き方などを学び，修士論文の完成に向け，関連文献の検索を行うとともに，研究目的，方法，結果，考察のまとめを行う。 ⑤ 関連学会で発表できるよう研究をまとめる。 １月 ① 修士論文を完成させる。 ２月 ① 修士論文発表会で発表，質疑応答を行う。 ② 発表会で指摘された事項を訂正・追加した最終の修士論文を提出する。	
科目の目的	【藤田】 クロマトグラフィー，二次元電気泳動分析などの最新分離・分析法および免疫化学的手法を駆使しながら生体試料から異常蛋白質を分離・分析し，その性状と発現（あるいは修飾）メカニズムを明らかにすることを目的に研究を行う。また，生体試料分析系に影響を及ぼす異常免疫グロブリンについても構造解析およびその反応メカニズムについて研究する能力を養成する。 【小河原】 血液細胞をフローサイトメトリなどの解析技術を基盤にして、病態との関連あるい予防医学的観点から研究を行う。 【荒木】 生殖医療に関する臨床材料から集積したデータを中心に解析・討論を行う、それを通じて考察から結論が得られる過程を学ぶ技術を修得することを目的とする。 【亀子】 生体内に存在する微量成分の分離・精製とその定量方法を立案し，病態解析を行う上で，如何なる疾患の指標となるかを研究する.	
到達目標	【藤田】 ①研究テーマを設定し，研究の意義・目的を理解することができる。 ②研究目的を実現するために，自立して研究方法を組み立て，実施することができる。 ③ゼミ，発表会，各種学会などでプレゼンテーションをすることができる。 ④研究成果を修士論文としてまとめることができる。 【小河原】 1.病態血液検査学とそれに関連する文献検討を踏まえ、研究課題を抽出できる。 2.研究課題の探求に適する方法を選択し、研究計画を立案できる。 3.科学的、論理的思考に基づいて研究データの収集、分析、考察を行い、研究論文にまとめることができる。 4.研究論文を学術雑誌に投稿し、その成果を公表することができる。 【荒木】 高度生殖医療技術（assisted reproductive technology;ART）の現状を理解し、ルーチン業務の中で問題になっているテーマを取り上げ、その解決策を思考できるようにする。 【亀子】 1.病態解析を行う上で指標となり得る微量生体成分の文献検索より，研究テーマが選択できる. 2.研究テーマについての実験方法が立案でき，その微量成分の有用性を示す事ができる. 3.研究論文を学術誌に掲載できる事.	
成績評価方法・基準	【藤田】 研究に取り組む姿勢、活動状況、論文の内容、プレゼンテーションの内容などで総合的に評価する。 【小河原】 審査基準に基づき、審査により決定する。 【荒木】 途中経過により討論を通して評価する。 【亀子】 審査基準に基づいて評価する.	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	【藤田】 研究テーマについて積極的に情報収集を行うとともに，定期的に研究の進捗状況の報告と討論を１～２時間行うこと。 【小河原】 なし	

	【荒木】 主体をルーチン業務の中から見つけることを推奨しているので時間は随時とするものの、集中的には2-３時間/1日は準備に充てたい。 【亀子】 実験が計画した時間内に終わるように，準備をしておく.
教科書・参考書	教科書： 【藤田】 藤田清貴：臨床検査で遭遇する異常蛋白質―基礎から発見・解析法まで（医歯薬出版） その他，必要に応じてプリントを配布する。 【小河原】 特になし 【荒木】 特になし 【亀子】 特になし 参考書： 【藤田】 岡田雅人，他：タンパク質実験ノート上（羊土社） 岡田雅人，他：タンパク質実験ノート下（羊土社） 【小河原】 スタンダード検査血液学第3版　日本検査血液学会編　医歯薬出版株式会社　7400円+税 Practical flow cytometry in haematology diagnosis M Leach et al, Wiley-Blackwell刊 【荒木】 The Cell 細胞の分子生物学（購入の必要はない。必要に応じて私の書を利用する） 【亀子】 改訂第4版 タンパク質実験ノート(上・下) 岡田雅人/宮崎 香（編） 羊土社　各4000円＋税
オフィス・アワー	【藤田】 随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する（fujita@paz.ac.jp）。 【小河原】 随時対応するが、予め連絡して頂きたい（ogawara@paz.ac.jp）。 【荒木】 各指導の前後、あるいは学生の疑問点の生じた時、随時受け付けたい。 【亀子】 適宜対応する.
履修条件・履修上の注意	【藤田】自主的かつ責任を持った実験・研究を進めること。 【小河原】なし 【荒木】 計画したロードマップに沿って研究が進められているか、教員とコミニュケーションを取って進めていく。その中で異論のある点はお互いが理解できるよう討論して独断的結論にならないよう注意したい。 【亀子】なし